

郷土読本

夢の実現を ふるさとくまもとの人々



郷土読本

夢の実現を

ふるさとくまもとの人々

は じ め に

みなさんは、ふるさと熊本について、どんなことを知っていますか。

熊本市は、水と緑に恵まれた豊かな自然をもち、多くの人々が、長い年月をかけてすばらしい歴史や文化を築きあげてきました。

これからみなさんが読むこの本の中には、夢の実現をめざし、一生をかけて努力したふるさとの人々22人が紹介してあります。

また、熊本市にある歴史資料館や記念館、さらに文化財や史跡も紹介しています。

時代をこえて、きっとみなさんの心にひびく、生き方・考え方を教えてくれることでしょう。

みなさんが、21世紀を切り拓く心豊か^{ひら}でたくましい日本人になることをめざして、ふるさとの人々の生き方や考え方から学んだことをもとに、夢の実現への道を歩んでいってくださることを願っています。



も く じ

ゆかりの地の案内—資料館・記念館・史跡—	編集 中
1 大慈寺を開き 人々のために生きた 寒巖 義尹	7
2 戦国の世に 肥後の平和を求めた人 鹿子木 寂心	編集 中
3 肥後の基礎を築いた 加藤 清正	編集 中
4 剣の道から生き方を見つめた 宮本 武蔵	編集 中
5 細川家初代肥後藩主 細川 忠利	編集 中
6 「肥後の鳳凰」とほめたたえられた 細川 重賢	編集 中
7 新しい日本を求めた 横井 小楠	47
8 日本一の活き人形師 松本 喜三郎	53
9 熊本の女子教育に尽くした 竹崎 順子	59
10 熊本最初の写真家 富重 利平	編集 中
11 自由民権の夢を求めた 広田 尚	編集 中
12 大日本帝国憲法を草案した苦学の人 井上 毅	編集 中
13 博愛慈善の医師 鳩野 宗巴	87
14 ハンセン病患者のために尽くした リデルとライト	編集 中
15 ジャーナリストの先がけ 徳富 蘇峰	99
16 女子商業教育の道を開いた 嘉悦 孝子	105
17 民生委員の父 林 市蔵	編集 中
18 偉大な漢学者 宇野 哲人	編集 中
19 ブラジル移民の父と慕われる 上塚 周平	123
20 熊本市発展の基礎をつくった 高橋 守雄	編集 中
21 ふるさとを愛し えがき続けた 堅山 南風	編集 中
22 江津湖が生んだ俳人 中村 汀女	編集 中

出かけよう！調べてみよう！（資料館・記念館・史跡めぐり）・・・	147
23 塚原歴史民俗資料館・・・	148
24 植木町田原坂歴史資料館・・・	149
25 御馬下の角小屋・・・	150
26 熊本洋学校教師ジェーンズ邸・・・	150
27 後藤是山記念館・・・	151
28 小泉八雲熊本旧居・・・	151
29 夏目漱石内坪井旧居・・・	152
30 六殿神社楼門・・・	152
31 熊本藩川尻米蔵跡・外城蔵跡・船着場跡・・・	153
32 熊本藩主細川家墓所（泰勝寺跡）・・・	153
33 熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）・・・	154
34 池辺寺跡・・・	154
資料 歴史年表・・・	155

調べてみよう！「ふるさと 熊本」

- ◆ ふるさと熊本には、政治・文化・教育・芸術など様々な分野で活躍した多くの人がいます。この本では、その方々の中から22人を紹介しました。よく知っている名前、聞いたことはあるという名前、初めて聞く名前があるかもしれませんね。「この人は、どんな人かなあ」「この人は、何をしたのかなあ」—この本をとおして、熊本市にゆかりのある人との新しい出会いが生まれることを願っています。
- ◆ みなさんが住んでいる地域にも、熊本市の歴史や人物に詳しい方がいらっしゃると思います。その方々にもお話を聞いてみましょう。新しい「夢の実現」をさがしてみるのもいいですね。
- ◆ 熊本市にある資料館・記念館・史跡も紹介しています。実際に訪ねてみると、熊本のことをもっと知りたいと思うかもしれません。自分から学びたいという気持ちをもつことは、とてもすてきなことです。

人々の生き方や考え方を学び、調べたことなどをもとにして
自分の考えをしっかりとちましよう。



1 ^{だいじじ}大慈寺を開き 人々のために生きた ^{かんがん}寒巖 ^{ぎいん}義尹

寒巖義尹

(1217~1300)

^{ごとば}後鳥羽天皇，または ^{じゅん}順徳天皇の皇子といわれている。



木像寒巖義尹像 【大慈寺蔵】

寒巖義尹は、^{てんのう}天皇の皇子として 1217 (^{けんぼう}建保5) 年に京都で生まれたといわれ、16 才でおぼうさんになりました。中国へ渡って勉強をし、52 才のころ熊本の ^{かわしり}川尻にきました。一生を、人々のくらしを ^{ゆた}豊かにするために働いたおぼうさんです。

◆豊かな水田

今からおよそ 700 年前，熊本市南西部 ^{おおわたり}大渡・^{ぜんども}銭塘一帯は水害がよくおこり，何を植えても育たない土地でした。

そこで，義尹が中心になって長い堤防を築いて土地を ^{ていぼう}耕し，みぞを ^{きず}ほって ^{たがや}水はけをよくしました。その結果，今のような豊かな水田地帯ができたのです。

◆人々のために生きる

義尹ぎ いんが育ったのは武士の世の中で、天皇や貴族き ぞくは力を失っていました。義尹は自分の生きる道を、人々のためにつくすことに決めました。

当時、最も進んだ学問をおさめていた人に、道元どうげんというおぼうさんがいました。義尹は25才のときに道元の弟子で しになり、きびしい修行しゅぎょうをつみました。そして、仏教ぶつぎょうの教えの中から人々のためにつくすことを学んだのです。

義尹は中国に2度渡り、10年以上、中国の進んだ文化や、橋をかける技術ぎ じゅつなどを学びました。博多はか た（福岡市博多区）に帰ってきた時、河尻荘じ とうの地頭、河尻氏から「ぜひ来てほしい」と手紙が来ました。

当時の川尻（熊本市南区）は博多とならんで、中国への船が出る港として栄えており、かつて義尹もおとずれたことがありました。川尻の風景は、遠い中国で修行をつんだ明州ミンツォウ（今の浙江省寧波市チョーチャンしょうニン）に似ていました。

義尹は明州の大慈山だい じ さんの景色が好きでしたので、1278（弘安元こうあんがん）年、川尻に禅宗ぜんしゅうの寺を建てて大慈寺だい じ じと名づけ、自分の一生をささげる場所を選んだのでした。

道元（1200～1253）
京都の貴族の家に生まれた。13才でおぼうさんになり、23才の時、中国に渡り修行した。日本にもどり曹洞宗そうとうしゅうを伝えた。

地頭

私有地などに置かれ、年貢を取り立てるなどの仕事をした。



大慈寺

◆この布で、服を作って着てください

義尹^{ぎ いん}が、土地をひらいた時の様子を伝えるエピソードを、98代^{だい}住職^{じゅうしよく}の佐藤泰道^{さ とうたいどう}さんが話してくださいました。

「義尹がなくなって 300 年ほどたった江戸時代のことです。熊本^{う き おがわ}県宇城市小川町出身の鉄眼禅師^{てつげんぜん じ}というおぼうさんがいました。鉄眼が修行しながら全国をまわっている時のことです。義尹がどろまみれの服で、自らくわを持ち、人々の先頭に立って土地を耕したこと、その服をぼろぼろになるまで着ていたことなどを、熊本で知ったのです。鉄眼は自分が生まれる前、そんなすばらしいおぼうさんが熊本にいたことに深く心を動かされました。さっそく京都に帰り、隠元^{いんげん}禅師に話したところ、禅師は、『義尹さんは、そまつな身なりやそまつな食事も気にせず、自分の生活をぎせいにしても人々のためにがんばったのだ。もうなくなられて何百年にもなるが今、せめて布を一反^{いったん}でもおくってあの世で着てもらおう。』と言って、このことを書いた額^かと布^{がく}をおくったということです。この額は今も大慈寺にあります。義尹のりっぱな生き方は代々の住職の手本なのですよ。」

鉄眼禅師

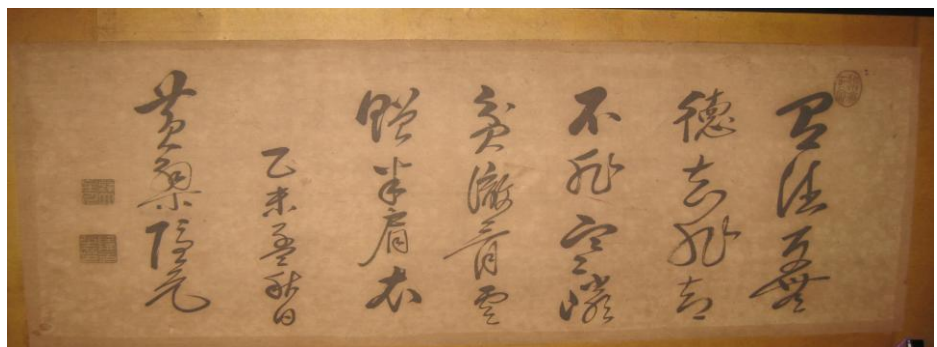
(1630～1682)

江戸時代はじめのおぼう^{おおさか}さん。大坂で飢えに苦しむ人々を助けていて病死した。

隠元禅師

(1592～1673)

江戸時代のはじめに日本にきた中国のおぼうさん。その時広めた豆がインゲン豆とされている。

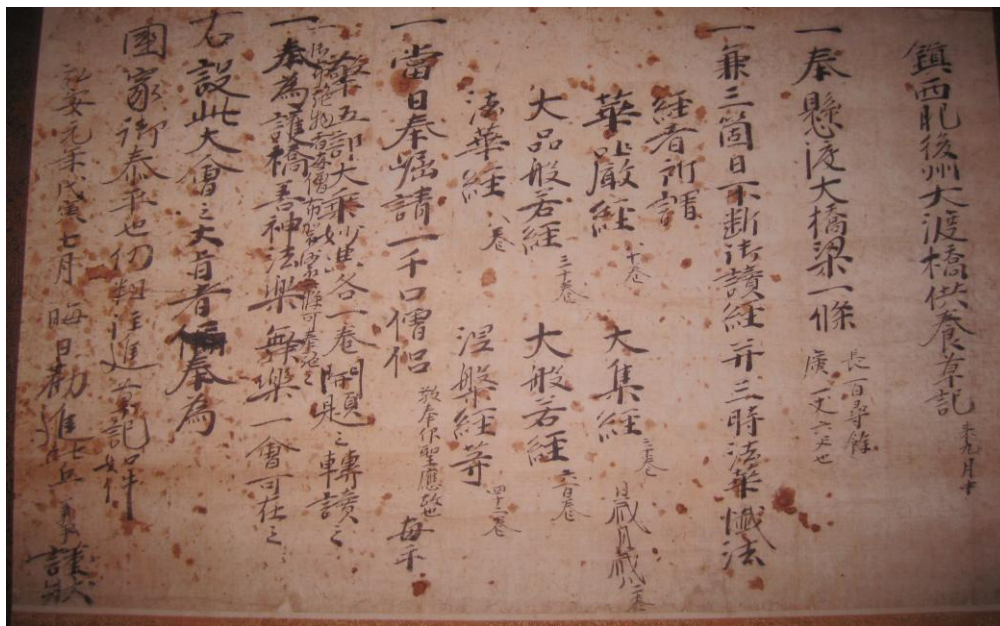


隠元禅師からおくられた額〔大慈寺蔵〕

◆命を救え、緑川のげき流に橋をかける

義尹^{ぎ いん}は橋を作る仕事もしました。当時の白川は、今とは流れがちがっていました。今の熊本市西区二本木^{にほんぎ}近くを通り、大慈寺の南で緑川と合流していました。この合流地点は、とても流れが激しく、渡し船がたびたび転ぶくして、なくなる人がたくさんでいました。「なんとか人々の命を救いたい。今こそ中国で学んだ技術を生かして橋をかけよう。」と決意したのです。

記録によれば、この大渡橋^{おおわたりきょう}は2年で完成しています。長さ150メートル、はばが4.8メートルで、当時としては大きな橋でした。下の写真の書には、1000人のおぼうさんが集まり、完成のお祝いの行事が3日間行われ、仏教^{ぶつぎょう}のおどりやえんそう会もあったと書いてあります。義尹61才の夏でした。



大渡橋供養草記 (1278 (弘安元年) 年) [大慈寺蔵]

大渡橋供養草記

この書は、義尹が橋の完成を祝う行事を計画した時に書いたもの。

銭塘江

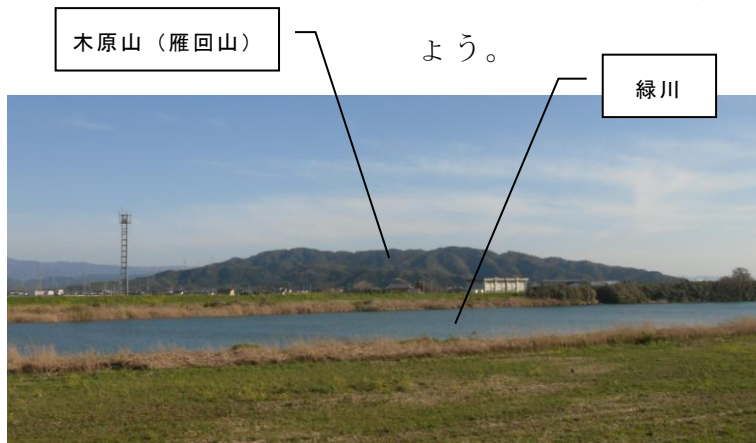
長さ 494 キロメートル。杭州湾にそそぐ川。毎年 9 月には、海水が川へ向かって大逆流をおこすことで世界的に有名である。

義尹^{ぎいん}は、生まれこきょうの京都に、とうとう帰ることがありませんでした。川尻の生活では、中国の修行をたびたび思い出したといいます。そのことをしめす地名も残っています。

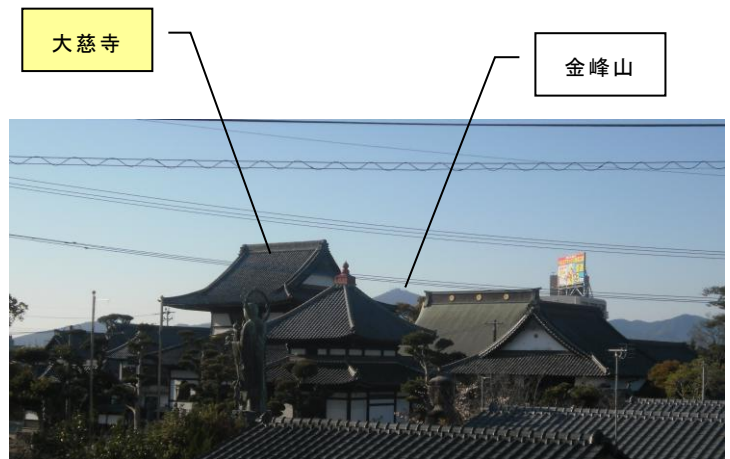
熊本市南区銭塘町。この「銭塘」は中国からとった地名といわれています。義尹は豊かな水田に生まれ変わった様子を見ながら昔のことを思い出していました。それは中国の美しい山や、心をなごませてくれた銭塘江^{せんとうこう}（チェンタン川）の思い出だったのでしよう。

川尻には、中国に似た風景があったのです。

目の前を緑川が流れ、そのむこうには木原山^{きはらやま}（雁回山^{がんかいさん}）の緑が美しい。北には金峰山^{きんぼうざん}がそびえ、遠くには阿蘇^{あそ}の山々が連なる。この美しい風景が義尹に語りかけ、義尹をはげましていたのでしよう。



大慈寺から南側のながめ



大慈寺と北側のながめ



義尹とゆかりの地

◆語り伝えられる義尹の心

義尹^{ぎ いん}の「人々のために生きる」心は、98代目の住職さんにいたる今日まで、ずっと受けつがれてきました。そして、義尹^{かんしや}に感謝する心もずっと受けつがれていました。人々は、春と秋2回、お寺の行事の時には、お米やお金をおそなえしています。

毎年9月には、義尹がなくなった記念行事が行われます。多くのおぼうさんや各地からおとずれた人々によって、本堂はいっぱいになります。

人々の喜びや悲しみとともに生きた義尹の心は、これからも語り伝えられていくことでしょう。



大慈寺の梵鐘^{ぼんしょう}〔国指定重要文化財^{くにしていじゅうようぶんかざい}〕

大慈寺の梵鐘

1287年に造られたとされ、熊本県で最古のものである。

7 新しい日本を求めた 横井 小楠

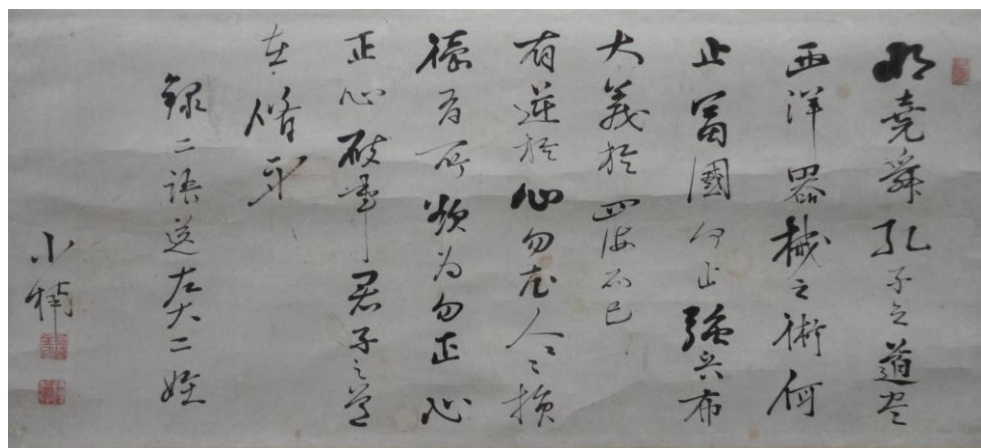


横井小楠 (1809～1869)
〔横井小楠記念館蔵〕

横井小楠は、「坂本 龍馬が師と仰いだ人物」「明治維新の青写真を描いた人物」といわれています。

小楠とは、どんな人物だったのでしょうか。

◆平和な国際社会



アメリカに留学する、おいの左平太、大平に横井小楠が与えた送別の語〔横井小楠記念館蔵〕

堯舜孔子の道を明らかにし、

西洋器械の術を盡くす。

何ぞ富国に止らん、何ぞ強兵に止らん、

大義を四海に布かんのみ。

「意味」

古代中国の孔子などが行った道徳的政治を基本にして、西洋の科学的な文明を積極的に取り入れなければならない。そして、自分の国だけを豊かにしたり、軍隊を強くしたりすることを考えるのではなく、平和にくらせる社会を世界中の国々がつくり上げることこそ最も大切なことである。

◆横井 小楠

横井^{よこ い}小楠^{しょうなん}がこれを書いたのは、1866（慶応^{けいおう}2）年です。このころの外国の様子は、強い国が自分の国のことだけを考えて、戦争をしていました。日本国内では、外国に負けないように海軍を強くしなければいけないと考えられていたころです。そんな中で、小楠は、平和な^{こくさい}国際社会が大切であると考えていたのです。

◆熊本から江戸へ

小楠は、熊本^{じょう か}城下^{うちつぼい}の内坪井に生まれました。子どものころから活発で、7才のときには、坪井川の流れの速くて深い所を500メートルも泳ぐなど、まわりの人々を感心させることがたびたびありました。

8才のときに、藩校^{はんこう}である時習館^{じしゅうかん}に入学し、^{ぶ どう}武道にはげんだり、歴史や中国の本から多くのことを学んだりして、どんどん力をつけていきました。15才のときには、そのがんばりがみとめられ、ほうびをもらい、日ごろ会うことができない殿様^{とのさま}にも会うことができました。そして、25才で居寮生^{きよりょうせい}となり、4年後にはとうとう居寮長にまでなりました。

後に明治天皇に仕えた元田永孚^{つか もと ながざね}が、小楠をたずねた時のことです。

「先生、わたしは先生と同じように学問をきわめようと思っているのですが。」

小楠は、だまって永孚の話聞いています。「この時習館で、どのような勉学をすればよいのでしょうか。ぜひ、教えてください。」

永孚の学問に対するやる気が、その話しぶり



生まれたところに残る井戸（復元）^{ふくげん}

藩校

藩士^{はん し}のための学校で、肥後藩^{じしゅう かん}の時習館^{しげかた}は細川重賢によってつくられ、1755年に開校した。

居寮生

藩からお金をもらいながら藩校の寮で生活し、勉強する寮生。

元田永孚

（1818～1891）

肥後藩出身の学者で明治天皇から信ら^{きょういくちやく}いされ、教育勅語の案を考えた。



じしゅうかんあと
時習館跡（二の丸広場）

家 老

大名を助け、藩を運営する重要な役。

藤田東湖

(1806~1855)

水戸藩出身で天皇中心の政治を考えた人。

遊学

よその土地に行って勉強すること。留学。

からわかります。やっと小楠^{しょうなん}が口を開きました。

「あなたは、時習館^{じしゅうかん}で、今行われている学問をどう思っていますか。」

「もちろん、素晴らしいと思っております。」

「わたしは、そうは思っていない。本当の学問とは、生きている人間のためにしなければならない。しかし、時習館で今行われているのは、言葉の意味調べや暗記で終わっている。学んだことを実際に生かさなければ、学問をきわめたとはいえない。」

小楠は、それまでの時習館のやり方を変えようとして、この試みは家老の協力もあり少しずつ前進していきました。

31才のとき、小楠は、藩から江戸遊学^{えどゆうがく}の命令を受けました。江戸での小楠は、水戸の学者である藤田東湖^{ふじたとうこ}など、多くの学者に会い、自分の考えを堂々と述べ、語り合いました。このときの江戸遊学が、小楠の考えを世界に向けるきっかけとなりました。

◆熊本から福井へ

越前藩

今の福井県。福井市と熊本市は姉妹都市。

松平慶永（春嶽）

(1828~1890)

越前藩主。幕府や明治政府で大きな働きをした。

1852(嘉永^{かえい}5)年、越前藩^{えちぜんはん}では藩校^{はんこう}を作る計画があつたのですが、どのような学校をつくっていいのかわからないでいました。そこで、藩主^{はんしゅ}の松平慶永^{まつへい}（春嶽）は、小楠へ手紙を書きました。

「わたしの藩では、学校をつくろうと思っています。あなたの考えを聞かせてください。」

小楠は、学校をつくるときの心構えを書いて、越前藩に送りました。その中には、「学問と実際の政治^{せいじ}は一体のものでなければならない。上に立つ人の心が大切である。」と書かれていました。小楠のその考えに春嶽はとても感心し、藩校をつくるときのもにと



松平 慶永（春嶽）
〔福井市立郷土歴史博物館蔵〕

しました。そして、春嶽^{しゅんがく}は、熊本^{しょうなん}にいた小楠^{えちぜんはん}を越前藩^{むか}の先生として迎え、いろいろなことを教えてくれるようにたのみました。

1858(安政^{あんせい}5)年に越前藩に迎えられた小楠は、藩校^{はんこう}での教育に一生けんめい取り組みました。また、小楠はそれだけでなく、越前藩^{ぼうえき}の貿易のやり方も変えました。わずかな武士^{ぶし}や商人だけがもうかるやり方をあらため、農民をふくめた多くの人たちのためになるようにしたのです。ここにも、みんなのくらしの向上を考え、実用を重んじる小楠の考え方がはっきりと打ち出されています。

◆福井から幕府へ

1862(文久^{ぶんきゅう}2)年、春嶽^{はくふ}は、江戸幕府^{せいじ そうさいしよく}から政事総裁職という重要な仕事につくように求められました。この役につくべきかどうかまよった春嶽は、小楠を江戸によび、相談しました。

政事総裁職

江戸時代^{えど}の末^{すえ}に作られた、りん時の役職で、大老^{たいろう}と同じようなものの。

「幕府から、政事総裁職につくようにとのことだが、わたしはどうすべきか決めかねている。」

「なぜ、まよわれておられるのですか。お引き受けなさいませ。」

「今、わたしが幕府に入ったところで何ができるであろうか。」

春嶽^{ひょうじょう}の困った表情とは反対に小楠は、落ち着き、力強く答えました。

「たしかに、幕府は多くの問題をかかえてたいへんです。だからこそ、幕府を改革^{かいかく}するめったにない機会^{ひとつ}ではありませんか。一橋慶喜^{ぼしよしのぶ}様と一緒に幕府を、いや、この国のことをお考えください。」

「よし、わかった。わたしにできるだけのことはやってみよう。」

幕府の政事総裁職^{こくぜ じょう}についた春嶽に、小楠は「国是七条」という、幕府^{かいかく}を改革する案を示しました。

その七つの考えの中には、

一橋慶喜

(1837~1913)

水戸徳川家出身。江戸幕府最後の第15代將軍になる徳川慶喜のこと。

参勤交代

37 ページ参照。

外様大名

関ヶ原の戦い以降、徳川氏に服した大名。

- ・参勤交代をやめること
- ・外様や譜代などの大名の区別に関係なく、能力のあるものは重要な仕事につけるようにすること
- ・多くの人々で話し合い、政治を行うこと
- ・豊かな国をつくるために、産業をおこし、国の手で貿易をすすめること

譜代大名

関ヶ原の戦い以前から徳川氏の家臣だった大名。

など、たいへん進んだ意見が書かれていました。

参勤交代は、とりやめになりませんでした。2年に1回だったものが、3年に1回に変わり、多くの藩の財政を助け、大名たちを喜ばせました。

◆四時軒から政治の表舞台（明治新政府）へ

留守居役

江戸屋しきにおかれた役で、幕府と藩とのれんらくなどをした。

江戸で、春嶽の相談役として活やくしていた小楠に、大きな事件がおこりました。江戸にいる肥後藩留守居役と話し合っていたとき、小楠の命をねらっておそいかかる者がいました。刀を身につけていなかった小楠は、越前藩江戸屋しきに刀をとりに帰り、急いでもどりましたが、仲間は切られていました。小楠は、肥後藩から「その場をはなれた。」として、責任を問われました。そのことで小楠は江戸を去り、肥後（熊本）に帰りました。そして、福井に行く前に城下から転居した沼山津（今の東区沼山津1丁目）の家に、こもることになりました。この家からは遠く阿蘇がのぞめ、家の前を木山川が流れるなど九州の山々の四季の風景が楽しめることから、小楠は、この家（塾）に「四時軒」という名前をつけています。



四時軒

◆横井 小楠

坂本龍馬

(1835～1867)

土佐藩の出身。幕府に反対し、新しい政治のやり方を考えた。

勝海舟

(1823～1899)

江戸時代末期の幕臣。日本の船ではじめてアメリカにわたった。明治維新のとき西郷隆盛と会見し、江戸を戦から救った。

参与

現在の大臣にあたる役職。「五箇条の御誓文」原案は、小楠の門人で、越前藩の由利公正が書いた。



小楠が身を守るために使った短刀



横井小楠記念館

五箇条の御誓文

1868（明治元）年に明治天皇が示した明治政府の基本方針。原案は小楠の門人で越前藩の由利公正が考えた。

この四時軒には、小楠のすばらしい評判を聞き、いろいろな人



四時軒の応接間

たちが意見を求めて、たずねてきました。

四時軒をおとずれた人物の中に、土佐（今の高知県）の坂本龍馬がいます。龍馬は、何度も四時軒をおとずれ、小楠と意見を交わしています。龍馬が小楠のことをどの

ように思っていたかを表すものとして、龍馬の手紙に

「天下の立派な人物といえど……肥後の横井小楠」と言っているほど、小楠の力をみとめていました。

また、勝海舟も『氷川清話』という本の中で、小楠のことを次のように述べています。

「私は、今まで偉大な人に二人会ったことがある。

一人は西郷隆盛、もう一人は横井小楠である。」

1868（明治元）年、江戸幕府にかわって明治政府がつくられると、新政府の強い希望で、小楠は政府の参与になりました。そして、新しい日本の進む道を考えました。明治政府の政治の進め方を示した「五箇条の御誓文」は、小楠の考えがもとになっているといわれています。

次の年の正月、小楠は京都御所からの帰りに、6人の暗殺者におそわれました。小楠は病氣上がりでしたが、必死に相手に立ち向かいました。しかし、ついに力つき、命をうばわれてしまいました。小楠 61 才の時でした。

おそわれたとき、小楠が身を守るために使った短刀は、今も横井小楠記念館（熊本市東区沼山津）に展示されています。



8 日本一の活き人形師 ^{まつもと きさぶろう} 松本 喜三郎

◆活き人形って何？

みなさんは、「活き人形」ってどんな人形のことだと思いますか？

松本喜三郎 (1825～1891)

下の写真は、^{しょうかんぜおんぼさつぞう}「聖観世音菩薩像」という活き人形で高さが 110 センチメートルもあり、^{らいこういん}来迎院（熊本市西区春日）に^{ほぞん}保存されて

います。これは、活き人形作りの名人、松本喜三郎が作った代表的な作品の一つです。

活き人形とは、歴史上の人物や物語に出てくる名場面を再現した人形のことです。

昔、熊本市では、^{じぞう}地蔵祭りがさかんに行われていました。そのときに登場するつくり物が活き人形のもとになっています。

現在は、矢部（^{やまと}上益城郡山都町）の^{はっさくさい}八朔祭や阿蘇郡高森町の^{ふうちんさい}風鎮祭、宇土市の地蔵祭りなどで、つくり物が登場しています。これらのつくり物は、自然にある物や日用品を材料にして作られ、見物人の目を楽しませてくれています。

^{きさぶろう}喜三郎の活き人形は、本物と

聖観世音菩薩像〔来迎院（熊本市西区春日）蔵〕 そっくりに作りあげるのが特ちょうです。





はっさくさい やまとちょう
八朔祭のつくりもの〔山都町商工観光課蔵〕

では、このような大きな人形をどのようにして作ったのでしょうか？

まず、モデルの人を細かくデッサンし、桐^{きり}という木材を材料にして、手足・どう体・頭部^ほを別々に彫^ほって全体の形を作ります。それから皮ふの部分には、肌^{はだ}の感じを出すために胡粉^{ごふん}をぬります。胡粉^{きり}を霧^{きり}のようにして、何回も何回もくり返しぬりこみます。この胡粉を使うところが喜三郎の特ちょうで、だれもまねができませんでした。その後、髪の毛やまゆ毛、まつ毛などを1本1本ていねいにさして作り上げていきます。手足は、持ち運びが便利のように、とりはずしが自由にできるようにしています。これも、各地で展示会を開くために喜三郎が工夫したものです。このような作業を通して、本物とそっくりな人形ができあがります。

活き人形は、江戸時代の終わりごろから明治時代の終わりごろまで、見せ物としてとても人気がありました。大坂（大阪）や江戸（東京）を中心に、各地で「活き人形展」がさかんに行われていたのです。

さて、こんなに大きくて、まるで生きているような人形を作った松本喜三郎とは、どんな人だったのでしょうか。

桐

軽くて、やわらかな木で、たんす・げた・ことの材料。

胡粉

貝がらをやいて作った白いこな。

◆絵の勉強をした少年時代

喜三郎は、江戸時代の 1825（文政8）年に井手の口（今の熊本市中央区迎町）で生まれました。

鞆
刀を入れるつつ。

少年時代から手先が器用で、自分で新しいものを作り出すのが得意でした。14、5 才のころ鞆を作る先生の教えを受け、めきめき上達し、弟子の中で一番のうでまえになりました。



観音像の下絵〔松本秀一氏蔵〕

また、向上心の強かった喜三郎は、絵にも興味をもっていました。このころから、本格的な人形作りをめざして、ひそかに勉強していた喜三郎は、いい人形を作るには絵をかく力もいると考えていました。どうしても絵が習いたくて、おじさんの援助で、絵の先生に入門して、勉強にはげみました。

「お前は、絵かきになるとかい。」

とたずねられ、

「絵を知らんと人形は作れんたい。」

と答えたそうです。

◆夢を求めて

喜三郎が 20 才のころの 7 月 24 日、熊本で地蔵祭りが開かれ、人形作りの競技が行われました。かれは、人と同じ大きさの「侍」の人形を作って、生涯のライバルとなる安本亀八と技を競い合いました。人形作りの競技で勝った喜三郎は、とても有名になりました。

安本亀八

（1825～1900）

熊本市出身の活き人形師で、喜三郎とともに江戸（東京）で活やくした。

しかし、それで満足する喜三郎ではありませんでした。「自分のめざすものは、本物とそっくりの人形を作ることだ。」という思いで、さらに研究を重ねていきました。

そして、喜三郎が 23 才のときに、近所の女の人をモデルとし

て、その人と同じ大きさの活き人形を作り、春祭りに出しました。
 舞台では、本人と人形を同じ髪、同じ顔、同じ服、同じポーズで
 ならべてみせました。「どちらが人間で、どちらが人形か。」と大
 さわぎになり、見物人をおどろかせたそうです。また、この時代
 にモデルを使って人形を作ることは、とてもめずらしかったそう
 です。

このころから喜三郎は、京都や大坂（大阪）、江戸（東京）で
 人形の展示会を開きたいという思いが強くなってきました。

1848（嘉永元）年、24 才の春に夢
 を求めて、一人で大坂へ旅立ちまし
 た。しかし、大坂に着いたころには
 持っていたお金もすっかりなくな
 ってしまいました。そこで、喜三郎
 は、かんざしや小物細工を作り、そ
 れを売りながら生活していきまし
 た。そうやって、自分で作った人形
 発表の機会を 6 年近く、じっと待ち
 ました。



1854（嘉永 7 のち安政元）年正月、30 才のと
 き、大坂で活き人形展を開きました。そのとき、

展示会のちらし〔松本秀一氏蔵〕

「活き人形元祖肥後熊本産松本喜三郎一座」という大看板をあげ
 ました。そこでは、異国人物人形を展示し、大成功をおさめまし
 た。初日だけで、1,350 人もの見物人が訪れるほどの人気でした。
 このとき、初めて、「活き人形」の言葉が使われました。

それから、一年後の 1855（安政 2）年、今度は江戸で新作の活き
 人形の展示会を開き、このときも大成功をおさめました。たいへ
 んな人気となり、約 120 日間も続いたそうです。



たにくみかんのんぞう じょうこくじ
谷汲観音像【浄国寺蔵（熊本市北区高平）】

こうして、日本一の活き人形師として、喜三郎の名前が世の中に広く知られることになりました。

左の写真は、「^{たにくみ}谷汲^{かんのんぞう}観音像」という作品です。

「^{さいごく}西国^{さんじゅうさんかしょ}三十三ヶ所^{かんぜおん}観世音^{れいげんき}霊験記」というテーマで展示された作品の一つです。展示会場を33の場面に分け、80体もの人形がかざられました。中でもこの作品は、喜三郎の大作で、美濃（岐阜県）^{たにくみでら}谷汲寺の観音が巡礼の女性に姿をかえたという話をもとに作られたものです。

この像の高さは160センチメートルもあります。まるで生きているようです。

◆医学のために力をつくす

喜三郎は、医学とも関係があります。それは、なぜでしょう。

1872（明治5）年は、喜三郎にとって思いがけない年でした。

大学東校（今の東京大学）の学長の松本^{じゅん}順から「授業に使う人体^{じんたい}模型^{もけい}を作ってくれないか。」と頼まれたのです。そこで、喜三郎は、解剖^{かいぼう}をしているところを見に出かけ、解剖図^{なつとく}を手にし、納得いくまで見学しました。

松本順

当時の医学の中で日本一といわれた人。

それから、人形作りをしばらく休み、人体模型作りに熱中しました。途中、何回か大学の解剖^{かいぼう}に出かけ、人体について学びました。

臓器^{ぞうき}一つ一つの形や色、皮^ひふの色がそっくりの人体模型を作りあげました。それはもう、みごとなできばえだったそうです。

松本学長は、喜三郎^{きさぶろう}を「百物天真創業工^{ひやくぶつてんしんそうぎょうこう}」としてほめたたえたそうです。

臓器

胃や腸などの内臓の部分。

百物天真創業工

世の中のすべてのものをありのままに作りあげることができる人。

◆ふるさと熊本で

喜三郎は、20 数年ぶりにふるさと熊本に帰ってきました。全力をそそいで作り上げた「西国三十三ヶ所観世音霊験記^{さいごくさんじゅうさんかしょかんぜおんれいげんき}」の人形の展示会をぜひ熊本の地で開きたいという強い思いからでした。

この展示会は、1871（明治 4）年に東京で開かれ、記録的な大ヒットをしたものです。

1882（明治 15）年、熊本の河原町あたりで開かれ、爆発^{ばくはつてき}的な人気で大成功をおさめました。当日は、大勢の人が一度におしよせてこないように、白川のむこう岸まで仮の橋が作られました。ところが、大勢訪れた見物人^{たいぜいおとず}の重みで橋がへしおれ、たくさんの人たちが川に落ちたそうです。この展示会は 60 日間も続きましたが、連日満員でした。

さらに 3 年後、喜三郎の人形作り人生の最後をかざる大作「本朝孝子伝^{ほんちょうこうしでん}」を発表しました。

人形作りや小物細工に情熱をそそいだ喜三郎は、1891（明治 24）年、67 才の生がいを終えました。

庶民芸術家^{しょみんげいじゆつか}としてほめたたえられた喜三郎は、浄国寺^{じょうこくじ}（現在は、熊本市北区高平^{たかひら}）の墓地にほうむられています。

本朝孝子伝

喜三郎 61 才の作品。「孝行」をテーマにし、120 日間かけて作られる。29 の場面からなっている。

竹崎順子は、熊本で初めて女子のための教育の場を作り、熊本女学校の校長として、愛とまことの教育を行い、熊本の女子教育に大きな功績を残した人です。



竹崎順子 (1825～1905)
〔開新高等学校蔵〕

◆ 順子先生と少年

「校長先生、このさいふは、先生のものではありませんか。お金もたしかめてください。」

「このさいふは、たしかにわたしのものです。でも、きのう、この子にあげたものです。」

校長の竹崎順子は、大きくうなずいて、落ち着いた声で、おまわりさんにそうはつきりと言いました。
さいふをぬすんでしまった少年を前に、順子は何を思ったのでしょうか。

着ている物はよごれ、おなかですいてふるえていた少年は、その言葉を聞いてたいへんおどろきました。さいふをぬすんだことをとがめなかったばかりでなく、心配ごとがあったらいつでもここに来るようと、愛に満ちたひろい心でこの少年をゆるしたのです。あやまちをゆるすことによって、少年をりっぱに立ち直らせました。



〔開新高等学校蔵〕

前列の左より2人目が竹崎順子、後列の左より2人目が徳富久子（徳富蘇峰の母）、3人目が横井つせ子（横井小楠の妻）、右円内が矢嶋楯子（東京女子学院長）である。久子・つせ子・楯子・さだ子は益城町木山で生まれたため、木山の四賢婦人といわれる。

◆ 生い立ち

順子は、江戸時代の1825（文政8）年、上益城郡杉堂村（今の上益城郡益城町）に生まれました。父（矢嶋直明）は、地方の役人をしていた人で、地域のためにつくし、したわれた人でした。母（鶴子）は読書や学問に熱心だったといわれています。

順子^{じゅん こ}は、このような両親のもとに、9人兄弟姉妹の5番目として生まれ、働き者で子どもたちのしつけにも熱心だった母によって、短歌や習字などの教養^{きょうよう}を身に付けました。

小さいときからすなおでやさしかった順子は、姉たちが結婚^{けっこん}した後も、病気がちだった母を助け、おさない妹たちのめんどうをよくみたそうです。順子が10才のころの話が残っています。

順子が大切に育てていたほおずきがたくさん実をつけました。それを見つけたすぐ下の妹の久子^{ひさ こ}がほしがりました。順子は「ほおずきが赤く色づくまで待ちましょう。」とやさしく言い聞かせたのですが、順子が外から帰って見ると、ほおずきは1つ残らず引きちぎられていたのです。久子がめっちゃめっちゃにあらしたのでした。順子は、わあっと泣きくずれながらも、おさない妹のしたことだったとじっとがまんしたそうです。

順子のやさしさとかしこさ、そして、愛情ゆたかなひろい心はこのような環境^{かんきょう}で育ったのでしょう。

◆教えの道へ

順子は、16才で竹崎律次郎^{たけざきりつ じ ろう}（のちの茶堂^{さどう}）と結婚^{けっこん}しました。律次郎の家は玉名のお金持ちでした。しかし、順子の生活は決して楽なものではありませんでした。結婚するとすぐ、夫の律次郎が仕事に失敗して、家や田畑のすべてをなくしたからです。

順子たちは、阿蘇^{あ そ}の布田^{ふ た}（今の西原村^{にしはら}）に移り住み、一からやり直しました。順子は田畑^{たがや}を耕し、かいこ^かを飼い、はた織り^おをしてくらししました。

一方、学問が好きだった律次郎は、順子の兄を通して横井小楠^{よこ い しょうなん}を知り、その門下生^{もん か せい}になりました。そして、自らもこの布田に子どもや青年を集めて塾^{じゅく}を開きました。この塾では、律次郎が漢学^{かんがく}

竹崎茶堂

(1812~1877)

茶道は横井小楠^{よこ い しょうなん}を中心とする実学党^{じつがくとう}で学問を学んだ。

横井小楠

47 ページ参照^{さんしょう}

門下生

弟子^{でし}のこと。

漢学

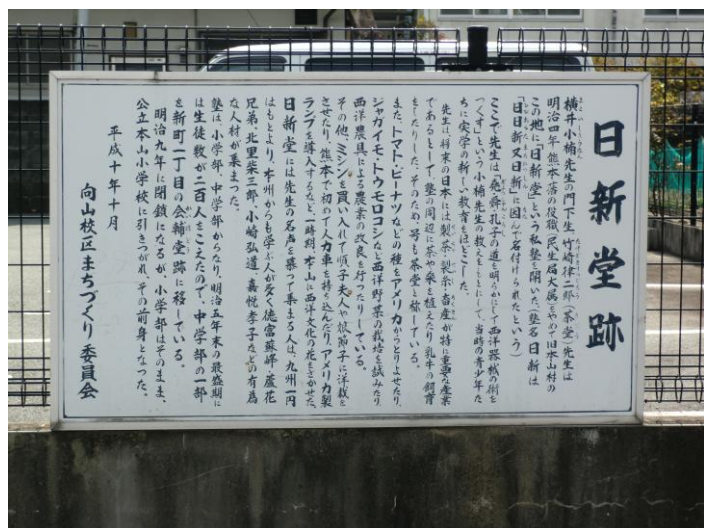
中国の古くからの学問や考え方。

いろは

今の「あいうえお」など 50 音にあたるもの。



裁縫の手本として縫った幼児用
ドレス〔開新高等学校蔵〕



本山にある日新堂跡
塾があった所に立てられ
たかん板（平成 10 年設置）
現在撤去されています。

女性の地位

当時、女性の地位はたいへん低いものだった。このころ女子が小学校に通っていた割合は、明治 10 年 22,5% 明治 20 年 28,3% ほどだった。

を教え、順子は小さい子に「いろは」を教えました。

その後、順子たちは横島（今の玉名市横島町）に移り住み、ここでも自宅の片すみで 7 才から 13 才ごろまでの子どもを集めて読み書きを教えました。順子は家事をしながら習字の手本を書き、女の子には、さいほうも教え、わが子のようにやさしく大切に育てました。このことを聞きつけ、あちこちから子どもの教育をたのみにきたそうです。

また順子は、竹崎家にやとわれて来た人にも、その長所を見つけるように心がけました。そのため、この家で働いた人たちは、必ず何か自分の良い所をほめてもらい、心から喜んで仕事に精を出したということです。

順子と竹崎茶堂（律次郎）は、この横島を後にして熊本に移り、明治 5（1872）年に、本山（今の熊本市中央区本山町）に日新堂という塾を開きました。日新堂では、今の小学生くらいの子どもから、上は中学生くらいの人々を集め、学科ごとに教師をまねいて受け持たせました。

茶堂は道德を担当し、順子は 7 才から 13 才までの子どもの世話と教育を受け持ち、

夫を助けて一生けん命教えました。しかし、その日新堂も茶堂の病気で、明治 9 年に閉じることになり、その次の年、茶堂はなくなりました。順子は 52 才になっていました。

◆久子と熊本女学会

順子の妹、久子は新しい時代になっても、女性の地位が変わらないことについて疑問を持っていました。

そのころ、熊本にはまだ女学校はなく、女性の地位の向上のため

めに、女子教育の必要性を早くから感じていた久子は、熊本にぜひ女学校をつくりたいと考えました。そして、1887（明治 20）年 5 月、友人と共につくったのが熊本女学会（のちの熊本女学校）です。生徒 3 人からのスタートでした。

この熊本女学会を、次の年、順子は受けつぐことになったのです。このとき、順子は 64 才になっていました。

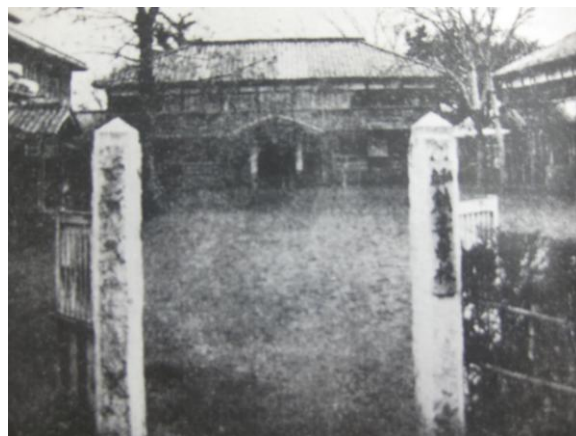
◆熊本女学校とともに

順子が熊本女学会をまかされてから、名前も熊本女学校に変わり大江村（今の熊本市中央区大江町）に新しい校舎もできました。

名実ともに、熊本で初めての女学校が誕生したのです。1889（明治 22）年のことでした。

順子は、この学校の舎監として、孫と同じくらいの年の少女たちとともにくらししました。

学校には、順子の好きな柳や梅、桜、みかんの木なども植えました。また、趣味のためにと、生け花のけいこ用の草花が植えられたほか、茶やくわもさいばいされ、野菜なども作って学校の経営を助けました。



熊本女学校時代の校舎
〔開新高等学校蔵〕

舎監

寄宿舎に泊まり込んで生徒の世話をしたり、勉強を教えたりする教師。



後に徳富蘇峰が書いた女学校の校訓（信・望・愛）
〔開新高等学校蔵〕

順子は、熊本女学校の設立に当たり、次のことを決心しました。

- 1 自分は、学問をしていなくて世話が行きとどかないから、専門の教師に教育をたのむこと。
- 2 何十人という女生徒のすべてが大切な人の子だから、同じようにあ
るがままを愛していかねばならない。
- 3 決してむやみに、まっすぐにしようとしたり、曲げようとしたりせ
ず、持っている個性を生かして自然のままに教育すること。
- 4 あいての心をつかんで、愛情をもって指導すること。決してすぐ効
果を求めるのではなく、みんながりっぱな人になるように時間をか
けて接すること。

寄宿舎

学生などを共同で生活
させるための建物。

順子は、この決心を最後まで実行したのでした。寄宿舎の生活は、すべて生徒が自分たちで行いました。毎日、当番で、生徒がそうじやすいじをしたり買い出しに行ったりしました。寄宿舎の会計なども、生徒の中から係を出してまかせました。

1897（明治 30）年、72 才のとき、順子は熊本女学校の校長となりました。しかし、女学校の経営はお金のこと一つとってもたいへんきびしく、苦労の連続でした。

そのような中で、順子の日課の一つについて後に卒業生が手紙に記しています。

竹崎先生は霜のおりた校庭を、毛糸のずきんをかぶり、くずかごと竹の長いはしを持って、一つ一つ拾って歩きました。ある日、生徒が見かねて、「校長先生、わたしにさせてくださいませ。」
と言うと、
「くず拾いはわたしがするから、さあ、あなたたちは勉強しなさい。」
と笑っておっしゃいました。しかられると思ったのにしかられず、はずかしくなりそれからは、みんなおたがいにくずを散らさないように心がけたそうです。

た お ども
手折りつる花はもろ手にあまれ共

の べ
いづれを野辺にすててかへらむ



歌がきざまれた石〔開新高等学校蔵〕

この歌は「あなたたちがつんだ花は両手からあふれようとして
いるけれども、どの花もすてることはできないでしょう。わたし
にとってのあなたたちも同じです。みんなわたしには、すてるこ
とのできない大切な^{たからもの}宝物なのです。」という意味です。これは、
まさに教育者としての^{じゅん こ}順子の心を表したものだといえるのではな
いでしょうか。

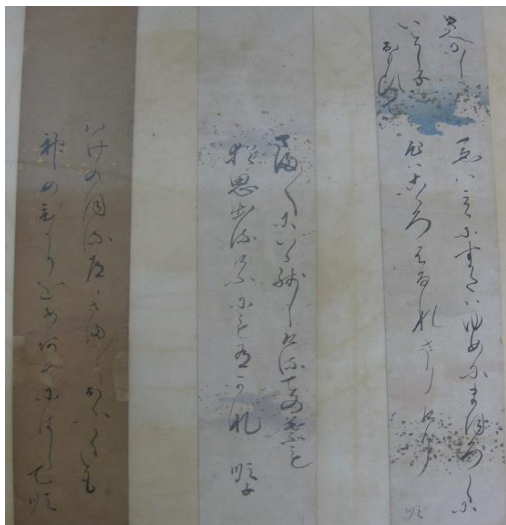
愛とまことの心で教育をし、どんなつらいときでも決して望み
を失わず、^{ぎやつきょう}逆境をも^{す なお}素直に受け入れるのが順子の生き方でした。

順子が^{じょうねつ}情熱をかたむけて育てた熊本女学校は、2010（平成 22）
年まで熊本フェイス女学院高等学校として、「明るく、温かく、
ほねおしみをしない」を^{こうくん}校訓に、順子の教えを受けつぎました。
今も卒業生たちの心の中に生き続けていることでしょう。

熊本フェイス

女学院高等学校

2010（平成 22）年開新
高等学校と合併した。^{がっぺい}



順子を書いた短歌〔開新高等学校蔵〕



今も熊本の女子教育を見つめている順子の像
〔開新高等学校蔵〕

1 3 はくあい じ ぜん い し はとの そう は
博愛慈善の医師 鳩野 宗巴



鳩野宗巴
(1844～1917)



当時使われていた医療器具〔鳩野家蔵〕

上の写真の道具は、昔使われていたものです。何に使われていた道具かわかりますか。

今から 100 年以上前の明治時代に、鳩野宗巴というお医者さんがいました。この人が多くの人を助けるために、これらの道具を使っていたのです。このころは、現在のように便利な道具やパソコンもありませんでした。しかし、お医者さんたちは、一生けんめい勉強して病気やけがの治し方を身に付け、多くの人々のためにがんばっていたのです。

明治時代に日本では、西南戦争という戦争が起きました。宗巴は、その戦争で傷ついた人々を助けるために力をつくしました。写真にあるのは、その当時に使われたメス、ハサミ、焼きごてなどで、今も大事に保存されています。宗巴は、敵味方の区別なくけが人の治療にあたり、戦争が終わった後も世の中のためになる活動を数多く行った人です。

西南戦争

1877（明治 10）年におきた西郷隆盛を中心とする鹿児島士族による反乱。

◆鳩の医者

鳩野宗巴は、1844（天保15）年熊本に生まれました。その先祖の一人が病気の鳩を治したことから「鳩の医者」と呼ばれ、それが鳩野という名字になったといわれています。

鳩野家は10代にわたり医者で同じ名前をついでいますが、ここに登場する宗巴は8代目にあたり、「8世宗巴」と呼ばれます。この宗巴は、19才の時家業をつぎ、1868（明治元）年には、25才で新政府軍の熊本一番隊医長として上野戦争に参加しました。横浜の病院で働いた宗巴は、けがをした兵士などの治療にあたっています。その病院で、イギリス人の院長ウィリアム・ウイルスに学び、新政府の病院で敵味方の区別なく治療がなされている様子にじかにふれたのです。同じ病院で働いていたイギリス人医師シドールは、次のように言ったそうです。

「これからの医療は、誰かれのためでなく、傷つき病める人のためになされなければならぬ。そこに、医師の天職はある。」

この戦争で300人ほどの治療をしましたが、この時の経験が後の宗巴に大きな影響を与えたにちがいありません。

鳩野宗巴（1世～7世）

- | | |
|------|--|
| 1世宗巴 | 1641（寛永18）年、長崎に生まれた。小さい頃から出島のオランダ館に出入りし、外国の事情に関心をもっていた。オランダなどの医術がすぐれていることを知り、鎖国中にもかかわらず、密かにオランダに渡り、5年間医学などを学んで帰国した。
佐賀藩主の飼った鳩を治し、鳩野姓になった。 |
| 2世宗巴 | 第3代肥後藩主細川綱利に招かれた。 |
| 7世宗巴 | 1815（文化12）年生まれ。外科を学んだ。
大きな病院や医師養成の塾を建てた。 |

上野戦争

1868（慶応4・明治元）年、上野寛永寺にたてこもった彰義隊（旧幕臣隊）と新政府軍との

ウィリアム・ウイルス

（1837～1894）
アイルランド生まれ。江戸時代の終わりに日本に来て（1861～1881在日）、多くの医師を指導した。



ウィリアム・ウイルス

シドール

（1840～1925）
ウィリアム・ウイルスより、数年あとに来日し（1868～1874在日）、ウィリアム・ウイルスと共に、多くの医師を指導し、医学の発展に貢献する。

◆^{てき み かた}敵味方なく救護



拝聖院

^{いけ べ きちじゅうろう}
池辺吉十郎

(1838~1877)

^{はん し さいごうたかもり}
熊本藩士。西郷隆盛ら
と交流があった。

^{たつ だ やま}立田山のふもとに、^{はいしょういん}拝聖院（^{むろぞの}熊本市北区室園）というお寺があります。^{けいだい}境内は^{かき}桜や^{たいぼく}柿，ナラなどの大木が青々としげり，森の中にいるかのようにです。

1877（明治10）年，^{そう は}宗巴が34才の時に，西南戦争が起きました。熊本の町は半年にわたり戦火にさらされ，市民の多くが家財^{かざい}をまとめ，大切な品物を井戸の中へ投げ込んだり，土壁^{つちかべ}にかくしたりして，家族を引き連れて田舎^{いなか}へ疎開^{そかい}することになりました。

宗巴も，^{みょうたい じ}妙体寺町（熊本市中央区）の自宅と^{しょうしつ}医院が焼失したため，^{こうがい}郊外の拝聖院にいたのです。

激しい戦争が続く3月，宗巴のところへ^{さいごう}西郷軍に加わった^{くまもと}熊本隊の隊長^{たい たいちよういけ べ きちじゅうろう}池辺吉十郎が訪ねてきました。

「熊本の士族がたくさん西郷軍に加わって戦っているのだが，^ふ負傷^{しょうしや}者が次から次に出て困り果てている。あなたの腕^{うで}を見込んで，ぜひ西郷軍の傷ついた人たちの^{ちりょう}治療をお願いしたい。」
と頼まれました。いやだと断れば命^{ことわ}を奪^{うば}われるかもしれません。しかし，宗巴は，少しもあわてず，

「あなた方，西郷軍だけでなく，相手の政府軍も，戦いに加わっていない一般の人も，けがをして治療を受けられずに困っている。医は^{じんじゅつ}仁術だから，みんな同じように治療してよろしいというのであれば，よろこんで引き受けましょう。」

と答えました。

「よろしい，そのようにしてください。」

と隊長も^{なっとく}納得していいました。

さっそく宗巴が病院をひらくと，たちまち200人以上のけが人が集まりました。あまり多いので，近くの家や寺なども^{じ ひ}自費で借り上げて病室にしたほどです。宗巴は11人の^{どうりょう}同僚医師とともに敵味方の区別なく，熱心に手当てをしました。

てきへい
敵兵を一人の人間として受けとめることは勇気のいることでしたが、彼はじっとしておれずに、救いの手を差し伸べたのです。

た ばるざか げきせん さいごう たいきやく
田原坂の激戦ののち、西郷軍は熊本市から退却を始めました。
8 月になり西郷軍が鹿児島に向けて逃げ帰り始めたころ、^{そうは}宗巴は西郷軍に味方したとして、^{さいばんしょ しゅつとう}裁判所に出頭を求められました。西郷軍の兵を救うことは当時、^{つみ}罪に問われることだったのです。

しかし、3 日後、熊本の九州臨時裁判所で、人々の治療に当たっただけで罪を受けるものではないとして、^{むざい はんけつ}無罪の判決を受け、^{しゃくほう}釈放されました。

西南戦争は、日本国民どうしの内戦で、政府軍も敵味方なく治療しました。政府の元老院の役人であった^{さ の つねたみ}佐野常民は、5 月 3 日熊本城内の^{しゆくしゃ}宿舎（熊本洋学校教師ジェーンズ邸・日赤記念会館）に^{せいとうそうとくあり す がわのみや たず}征討総督有栖川宮を訪ねました。そして、「戦争で傷ついた敵方の人々も助けたい」と訴えて、許可を得、^{うった きよ か はくあいしや}博愛社（日赤の前身）を^{そうせつ}創設して、後に活動しました。今、災害などで活躍する日本赤十字社はこうして熊本で生まれたのです。



^{さ の つねたみ}佐野常民

(1823~1902)

^{さ が はん し}佐賀藩士。政府の役人
^{はくあいしや}で博愛社を創設した。
^{そうせつ}日本赤十字社の創設者。

^{あり す がわのみや}有栖川宮

(1835~1895)

^{たる ひと しん のう}有栖川宮熾仁親王のこと。有栖川宮とは、
かつて存在した宮家の一つ。



熊本洋学校教師ジェーンズ邸・日赤記念会館（熊本市中央区）

（平成28年熊本地震で倒壊し、場所を変えて令和5年（2023年）に再開館しました。）

◆人だけにどどまらず

宗巴^{そう は}は、西南戦争後も医者として仕事を続けました。往診^{おうしん}で出されたお菓子を包んで持ち帰り、帰り道に貧しい家庭の子どもに与えたというエピソードも残っています。父の7世宗巴の時代に始められた医師養成の家塾^{かじゅく}（亦楽舎^{えきらくしゃ}）も続け、たくさんの医者を育てました。1889（明治22）年に流行した数え唄^{うた}にも、名前が出てきます。

1889（明治22）年に流行した数え唄

一ツとや	一ツ	ひとつもじゃ水前寺が名所
二ツとや	二ツ	ふた二なりモヤシは川尻が名所
三ツとや	三ツ	みかん蜜柑は河内が名所
四ツとや	四ツ	ようかんは唐人町 ^{とうじんまち} が名所
五ツとや	五ツ	医者殿 ^{はと} は鳩野さんが名所

質屋

品物を預かってお金を貸す店。

熊本貧児寮

家庭的にきびしい状態に置かれた子どものための寮。

日清戦争

1894～1895 に日本と清（現在の中国）の間で行われた戦争。

また、医者として活躍^{かつやく}しながら、質屋^{しちや}も開いていました。貧しい人々からはお金をとらないこともたびたびでした。1892（明治25）年に熊本貧児寮^{くまもとひんじりょう}が建設されると、以後20年間お金をもらわずにボランティアで、その寮の担当医師としての仕事もしました。

宗巴は人間だけでなく、命をもつ生き物に対しても、優しい思いやりの心がありました。

日清戦争では、たくさんの馬が戦場に送られました。熊本から戦



宗岳寺に立つ馬の供養碑
（熊本市中央区上林町）

争に出ていく馬を、宗巴は何度も見送りました。ところが戦争が終わってもふるさとに帰ってこない馬がたくさんいました。宗巴は、

「帰らない馬は、ものも言えず戦場で死んでしまったのだ。軍人とともに戦死した馬も供養しよう。あの馬たちの魂をなぐさめよう。」

と呼びかけ、大勢のおおぜいの人がそれに賛成しました。

1896(明治 29)年 2 月。宗巴と妻である律子^{りつこ}の名前で熊本市中央区坪井にある宗岳寺^{そうがくじ}に馬の供養碑^{くようひ}を建てました。

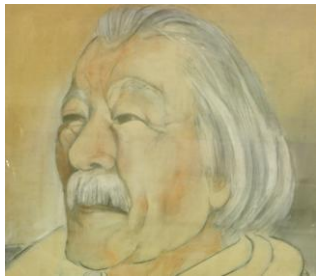
◆今も生き続ける

宗巴は、これまでの活躍ぶりを認められ、1915(大正 4)年には熊本市長より、慈善家^{じぜんか}として表彰^{ひょうしょう}を受けました。でも、そのお金は受け取るとすぐに貧しい人々のために寄付^{きふ}したそうです。その後 8 世宗巴は 1917(大正 6)年、74 才で亡^なくなりました。宗巴のお墓は、熊本市中央区横手^{よこて}の妙永寺^{みょうえいじ}にあります。

1977(昭和 52)年、宗巴は、診療^{しんりょう}や医学生^いの育成に力を尽くした慈善^{じぜん}を行った医師として、熊本県近代文化功労者^{こうろうしゃ}の表彰を受けました。その時の記念品は代々受け継がれ、今も鳩野家で大切に保管されています。



近代文化功労者の表彰記念品〔鳩野家蔵〕



徳富蘇峰 (1863~1957)
〔松山南風作、徳富記念園蔵〕



徳富蘇峰〔徳富記念園蔵〕

徳富蘆花

(1868~1927)

蘇峰の弟で小説家。
「不如帰」などが有名。



蘇峰が小さいころ育った
水俣の家



兼坂塾あと



長命水

1里

約4キロメートル。

15 ジャーナリストの先がけ 徳富 蘇峰

◆ $2 \times 3 = 5$

「 $2 \times 3 = 6$ と $2 \times 3 = 5$ 。どちらが正しい？」

2 と 2 を合わせて 4 だから、 $2 \times 2 = 4$ 。だったら、2 と 3 を合
わせて 5 だから $2 \times 3 = 5$ 。こう言いはって徳富蘇峰は小さいこ
ろ、親せきの子どもと大げんかをしました。

この人はどんな活やくをしていくのでしょうか。

◆みなまた 水俣で生まれる

江戸時代の終わり、世の中が次の新しい時代に向けて大きく
変わろうとする 1863 (文久3) 年、蘇峰は徳富一敬の子として
水俣に生まれました。女の子が 4 人続いたあとに生まれ、猪一
郎と名付けられました。弟には、文学者として有名な蘆花がい
ます。

◆かねさかじゆく 兼坂塾で学ぶ

熊本にひっこしてから、8 才になったころ、島崎 (熊本市西
区) の石神山にある兼坂止水先生の塾に入ります。本を読む勉
強だけでなく、先生の家で、ね起きしながら手伝いや仕事をし
て、いろいろ学びました。水くみはたいへんで、石神山の下に
ある長命水という湧き水をくんで、何度も急な坂を登らなくて
はなりません。朝市でスイカを買ったときも、それがかついで
もどりました。先生のおともをして夜 10 時ごろまで待たされ、
それから 1 里あまりのいなか道を、ちょうちんをつけて帰って
くることもありました。こういうことが続くと、がまんできな

くなり、母のもとに逃げ帰ったことも何度かありました。しかし、この塾^{じゅく}で、「人間はみな平等^{びやうどう}であり、地位にたよったりしないで、自分の力で仕事をして生きること」の大切さを学びました。

◆新聞に興味^{きょうみ}を持つ

13才になると、両親のすすめで、熊本城内^{ふるしろ}にあった熊本洋学校に入り、新しく勉強を始めます。

この学校のそばには、本を印刷^{いんさつ}する会社があり、そこから出ている「白川新聞」や「熊本新聞」にとっても興味^{きょうみ}を持ちました。

父が、東京から取りよせている新聞も熱心に読み、そのころの世界のできごとよく知っていました。

◆新島先生^{にいじま}との出会い

14才のとき、熊本を出て東京の学校に入ります。しかし、人生^しの師に会うことができませんでした。

そのころ、新島襄^{にいじまじょう}というアメリカ帰りのりっぱな先生が、京都^{どうししゃ}の同志社という学校^{い いちろう}にいることを聞きます。猪一郎は両親にだまって京都に向かい、その学校に入りました。

先生にひとめ会ったときから、その教え方よりも人がらに心ひかれていきました。「先生は心の人でした。私は新島先生という師に会えたことを一生の幸せだと思っています。」と、猪一郎は後々^{のちのち}まで言っています。

ところが、校風がアメリカ化しているのが気に入りません。「尊敬^{そんけい}している新島先生が、アメリカのことばかり言うのはなぜだろう？それは、日本がだらしがないからだ。日本の国をもっと力のある国にしなければいけない。そのためには、自分

熊本洋学校

150 ページ参照

師

勉強だけでなく生き方を
教えてくれる先生。



新島 襄 (1843～1890)
〔国立国会図書館蔵〕

の思っていることを多くの人にうたえることができる新聞記者になろう！」猪一郎はそう考えるようになりました。

◆^{つえ じ けん}杖事件

そのころ、同志社で一つの事件^{じ けん}がおきます。上級生と下級生の2つの組をいっしょにするという学校のやり方に不満を持った上級生が、みんなで相談して、だまって学校を休みました。

新島先生^{にいじま}は、なんとか問題にならないようにしようとしたが、「学校のきまり^{やぶ}を破った人たちを、ゆるすのはまちがっている。」と、生徒たちからひなんされました。

こまった新島先生は、全校の朝の集まりでこう話しました。「君たちの中から、だまって学校を休んだ者が出たのは、校長であるわたしに責任^{せきにん}がある。きまりはきびしく守らなければならない。だから、今から校長にばつをあたえます。」

そう言って、右手に持っていた杖^{つえ}で、左の手のひらをつよく打ち始めました。杖は2つに折れ、さらに3つに折れました。

猪一郎^{い いちろう}はみんなといっしょに立ち上がり、かけよって、なみだを流しながら先生を止めました。

この事件で、上級生の味方^{み かた}をしていた猪一郎はおおいに反省^{はんせい}をし、学校にいづらくなかったので、新島先生の止めるのをふりきって学校をやめました。



大江義塾（熊本市中央区大江）

西洋

ヨーロッパのこと。

◆^{おお え ぎ じゅく すいぜん じ}大江義塾と水前寺事件

猪一郎は熊本に帰り、20才のとき、自宅を教室にして大江義塾^{おお え ぎ じゅく}をつくりました。猪一郎は英語、歴史など何でも教えました。勉強のとちゅうでも、「西洋や中国のよいところは学んで、国のために働く人になるんだ。」と、よく話していました。

塾^{じゅく}での勉強だけでなく、外にもよく出かけました。立田山でのうさぎがり、江津湖^{えづこ}での舟遊び^{かわち}、河内^{かわち}のみかんがり、岩戸^{いわと}観音^{かんおん}まいりなどを楽しんでいます。

ある夏の日、生徒を連れて水前寺公園で遊んだことがあります。生徒たちは、水に入^むって夢中^{むちゅう}になっているうちに、入^ふってはいけない富士山^{ふじさん}の形をした山のしばふに上^あがってすもうをとり、大さわぎになりました。それが見つかってしかられたのです。

そのとき、少しはなれた松の木の下で、本を^い読んでいた猪一^{いち}郎^{ろう}がかけつけ、しかった人の前に^{すわ}ると、両手を地面についであやまりました。

「わたしが悪かったのです。おわびします。すべての責任はわたしにあります。どうかおゆるしてください。」

と言って、生徒のためにわびたので、しかった人も感動^{ゆう}して許してくれました。

みんなは、どんなにおこられるだろうとびくびくしていましたが、猪一郎は、そのときおこりもせず、その後も何も言いませんでした。

この大江義塾で勉強した人は、約 200 人いますが、みんな国を愛する心をもったりっぱな人になり、活やくをしました。

◆これからの日本を考える



上京した当時の蘇峰（23 才）

〔徳富記念園蔵〕

そのころ、ヨーロッパの国々やアメリカが、アジアに力を広げようとしていました。

「こういうときに、日本はどうすればいいのか。産業をさかんにし、武力^{ぶりょく}にたよらず世界の人となかよくしなければいけない。」

と考え、『^{しょうらい}将来の日本』という本を書きます。

大江義塾

自由平等の考えをもとにして大江で始めた学校。庭には新島先生から送られたカタルパの種から育った木（今は 2 代目、3 代目の木）があり、5 月中ごろに白い花を咲かせる。



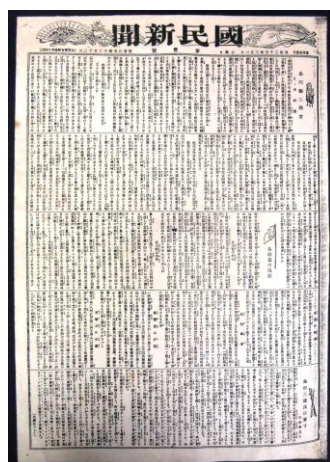
将来の日本〔徳富記念園蔵〕



国民の友〔徳富記念園蔵〕

そして東京に行き、この本を出したところ、その評判がすばらしく、続けて『国民の友』という雑誌を出しました。この中で、「みんな平等である。一部の人たちだけが栄える今の政治は、日本のためにならない。」とうたえています。このころ猪一郎は、阿蘇の「蘇」の一字をとって『蘇峰』という名前を使い始めました。

◆『国民新聞』を出す



国民新聞第一号

〔徳富記念園蔵〕

少年のころから新聞記者を夢みていた蘇峰は、その後『国民新聞』を出し始めます。それまでの新聞のように政治や経済のことだけでなく、いろいろな社会の問題を何でものせました。また、中身によっては、読むより見るほうがわかりやすいということを考え、絵を入れることにしました。インタビューものせるなど、新しい新聞の形をつくりました。

蘇峰は、この新聞を出すことで、平等で自由な社会をつくりたいと思っていました。

しかし、日清戦争で得た領土を、「もどすべきだ。」と他の国から強く言われて、返さなければならなくなりました。そこで、蘇峰は軍隊を強くしなければならないと思うようになりました。このことについても、新聞に自分の考えや思いを積極的に書き続けました。

日清戦争

91 ページ参照。

◆明治の時代を書き残す

蘇峰は歴史が好きでした。若いころから、明治天皇のことや、日本の国民の様子を書いて、残しておきたいと思っていました。しかし、その決心がついたのは、明治天皇の病気を知り、二重橋まで出かけて、病気がなおるように祈っていたときのことで

した。

そのとき、「明治時代の日本のすばらしさを、この目で見、この身で体験した自分こそ、百年、いや千年のあとまで伝える責任がある。」という思いでいっぱいになりました。

明治という時代を書くには、織田信長の時代から書かないとわからないと考え、その時代から書き始めました。1918（大正7）年、55才で第1回目を書き、国民新聞にのせます。それから34年間、回数も11781回になり、1952（昭和27）年、89才のときまでかかって書き上げました。この『近世日本国民史』という本は全部で100巻にもなっています。

この本は、たくさんのことを調べて書かれています。蘇峰は、当時の国を動かしていた人からも直接話を聞き、くわしく書いていますので、これから先、これ以上の本は出ないだろうと言われています。

蘇峰は、1954（昭和29）年に水俣市と熊本市の名誉市民となりました。その3年後の1957（昭和32）年、94才でなくなります。文を書くことで国につくした一生でした。



水俣市にある蘇峰記念館



近世日本国民史（全巻）
〔徳富記念園蔵〕



近世日本国民史（1～4巻）
〔徳富記念園蔵〕

16 女子商業教育の道を開いた 嘉悦 孝子

◆日本初の女子商業学校



嘉悦孝子(1867~1949)
〔嘉悦学園蔵〕



日本女子商業学校の校舎〔嘉悦学園蔵〕

でき上がったばかりの木の香も新しい東京 麹町(東京都千代田区)の校舎の前で、しみじみと自分の人生をふりかえる女性のすがたがありました。

その女性の名前は、嘉悦孝子です。孝子は、女子が商業や経済を学ぶための、日本初の「私立日本女子商業学校」をつくった人です。その当時は、校舎を借りて学校を設立したのですが、それから4年後、1907(明治40)年にこの新しい校舎を建てることのできたのです。

当時は、「商人に学問はいらない」といわれた時代でした。そのような時代に「女子にも商業教育を」と訴えて、実際に学校を設立した嘉悦孝子とはどんな人だったのでしょうか。

孝子は、1867(慶応3)年に本山村(今の熊本市中央区本山)で生まれ、「鷹子」と名づけられました。

◆鷹から孝へ

孝子は8才から竹崎茶堂が開いた塾、日新堂に通いました。

9才の春の日、孝子は父氏房に言いました。

孝子の生まれ

孝子の生まれた場所は、熊本城下の内坪井とする説もある。

日新堂

61 ページ参照

「孝行の孝という字はタカとも読むと竹崎先生に習いました。孝はよい行いのもと、ということですから、わたしが正しい人間になるように、名前の鷹たか たかを孝という字に変えてください。」

父の許しを得て、この日から「鷹子」ではなく、「孝子」と名乗るようになりました。このように、孝子は幼いころから、自分のことは自分で決めていくという自立心の強い子どもでした。

◆働くことから学ぶ

孝子は勉強が好きでした。しかし、12才のとき、父の経営する緑川製糸工場みどりかわせい し かみ ま しきぐんこう さ(上益城郡甲佐町)で働くことを自分で決めました。家の家計が苦しいのを感じ、少しでも父や家族を助けたいと考えたからでした。

工場では、経営者の子どもであるという責任感せきにんから、どんなにつらい仕事もいやがらずにがんばりました。

この工場には、働く女性に仕事を教え、作業をかんとくする徳富音羽とくみおとわという女性がいました。音羽は徳富蘇峰とくとみそほうのお姉さんで、たいへんかしこい女性でした。孝子はこの徳富音羽いんしょうにあこがれ以上の強い印象を受けました。

徳富音羽

徳富蘇峰については
99 ページ参照。

「わたしも人に教え、人を導くようになりたい。先生になりたい。」

孝子は、働きながらもそのような思いをもつようになりました。

父の事業の失敗により、緑川製糸工場はわずか2年で閉鎖され、孝子は家にもどることになりました。家に帰った孝子は、にわとりを飼って卵たまごを売るなどして家計を助けてました。しかし、なかなか生活は楽にはなりませんでした。このころから、孝子は、「だれであっても、働いて経済力けいざいをもつのは当然。また、どんな家庭にあっても、家計のきりもりの上手な女性であることが大切であ

る。それには女子に商業や経済の知識を教える学校が必要である。」という思いが強くなっていきました。

苦しい生活の中でも、「勉強したい。そして先生になり、女子に必要な経済や商業の知識を教えたい。」という孝子の理想は、高まっていったのです。

◆あこがれの東京へ

1887(明治 20)年、孝子^{たかこ}が待っていたチャンスがおとずれました。父が鉄道会社の役員になり、家計に少しゆとりができたのです。おかげで孝子は東京へ行って勉強することができるようになりました。

孝子は東京神田^{かん だ}（東京都中央区）にできた成立学舎女子部^{せいりつがくしゃ}に入りました。学ぶ内容はむずかしかったのですが、孝子は努力し、半年後にはすばらしい成績^{せいせき}をおさめることができました。

本科卒業後は、助教^{じょきょう}をしながら、高等部で学びました。また、高等部卒業後は成立学舎の正式な教師となりました。

◆教師としてふるさとへ

1892(明治 25)年 4 月、孝子は地元の人々の強い願いにより、宇土町（今の宇土市）に新しくできた鶴城学館^{かくじょう}の教師として迎え^{むか}えられることになりました。

ところが、東京の成立学舎では大さわぎでした。孝子は正教員として 1 年しか勤^{つと}めておらず、有能^{ゆうのう}な教師に熊本に帰られたのでは、たいへん困^{こま}るからです。成立学舎の先生方も生徒たちも、なんとかして孝子を引きとめようと必死でした。当時は孝子のような優秀な女性の教師は、全国にもあまりいなかったのです。

孝子は、教師としての自分を育ててくれた成立学舎で教師を続けて恩返^{おん}しをしたいという思いと、愛すべきふるさと^{こうはい}の後輩たちを育てたいという思いにはさまれて心がゆれ動きました。のちに

成立学舎

今の高等学校にあたる学校。本科と高等部に分かれていた。

助教

学生であり、授業をする先生。

鶴城学館

小学校の卒業生が通った学校。今の中学校、高等学校にあたる学校。



鶴城学館

孝子は、この時のことを思い出して、

「わたしの人生は、迷い^{まよ}の一生だったが、この時ほどどうすれば
よいかを迷ったことはなかった。」

と、周りの人に語ったそうです。

孝子^{たか こ}は迷いに迷ったあげく、結局はふるさと、宇土の鶴城^{かくじょう}学館
に行くことを決めました。「まずは自分が育ったふるさとに恩返し
をしよう、そして、自分が立派な人間となり、すぐれた教育者と
なることが母校である成立学舎への恩返しにもなる。」と、考えた
のでした。

このようにして 1892(明治 25)年 4 月、孝子はふるさと宇土の
鶴城学館の教師となりました。

「今度、東京から帰って来た女の先生は、英語でん、数学でん、
中学の 5 年生までも教えきらす、えらか先生げなたい。」

東京帰りの女の先生、孝子に対するうわさは、宇土^{ろうにやくなんによ}の老若男女
すべての人々の話題をさらってしまうほどでした。

宇土では、今度やって来るといふ女性の教師のうわさにおどろ
いて、はじめは男子部の生徒^{し どう}たちは、孝子に形だけ頭を下げてい
ましたが、孝子の熱心な指導^{し どう}に対して、日一日と心から尊敬^{そんけい}の気
持ちを表すようになっていきました。

孝子は多くの生徒にしたわれました。また、それは学校の中だ
けではなく、町じゅうの人々にも広がっていきました。

孝子は、ひまを見つけては生徒の家を訪ね^{たず}て語り合い、学校外
の行事^{せつきよくてき}にも積極的に出かけて行きました。

「教室だけの教育ではなく、町のすべての住民の教養^{きょうよう}の向上
に力をつくさなければならない。」

孝子は、そのような強い思いをもって鶴城学館で 4 年間をすご
し、宇土の教育に功績^{こうせき}を残しました。

◆生徒と共に

舎監

62 ページ参照

1896(明治 29)年、孝子^{たか こ}は東京にもどり、女学校の教師になりました。新しい学校では、舎監^{しゃかん}として生徒^{ね お}と寝起きを共にし、生活すべての指導をしました。朝は洗面がすむと先頭に立って便所掃^{べんじょそう}除^じを始めました。

「働くということは、確かにつらいこともあるでしょう。でも、こんなにきれいになったところを見ると、とても気持ちよく、働いた苦勞^{くろう}を忘れてしまうんです。」



学校を設立した頃の孝子
〔嘉悦学園蔵〕

孝子は、こんなふうに生徒たちに語りかけました。孝子は一生けんめい生徒たちの指導に力を注いでいましたが、その毎日に何かもの足りなさも感じていました。「自分のやりたい教育とは少しちがう。わたしは世の中で生きていくために、もっと役に立つ教育をしたい。そのための学校をつくろう。」と、自分で新しい学校をつくる計画を立て始めました。

◆「商業」の2文字は、はずせない

1903(明治 36)年、孝子は自分の理想を実現するために、日本で初めての女子商業学校を東京神田^{せつりつ}に設立しました。しかし、入学してきた生徒はわずか 11 人でした。そのことを心配して、

「いっそのこと校名から商業の2文字をはずしたらどうですか。

そうしたら、もっと入学者もふえますよ。」

と言う人もいました。

それに対して、孝子は答えました。

「それはぜったいできません。わたしは単に女子教育をしたいわけではありません。女性が自分の力で生きていくための商業教育がしたいのです。今は社会に出て働く女性は少ないけれど、そんな女性を求める時代がきっと来ます。」



授業をする孝子〔嘉悦学園蔵〕

孝子は近代化していく日本の中で、女性の社会進出など、将来のことを見通していたのかもしれませんが。多くの人が、「女性への経済・商業教育は必要ない。まだ早すぎる。」と言っていた時代に、孝子は自分の信念をつらぬき、女子の商業教育に力を注ぎました。この学校では、全国にさきがけて、簿記や家計簿の付け方が教えられました。

簿記

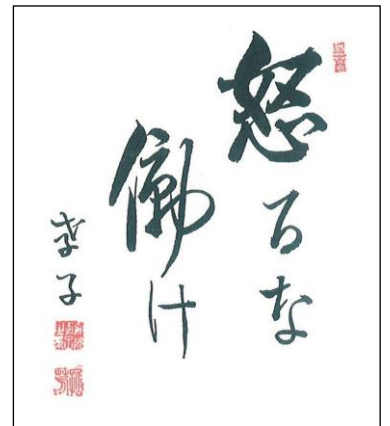
お金の出し入れや仕事の取り引きを書く方法。

時代の流れとともに、入学してくる生徒もふえていきました。

◆怒るな働け

1907（明治40）年、麹町（東京都）に移転することになりました。40才になった孝子は、新しい校舎を前にして、この学校で学ぶ生徒たちに、これからの人生の支えとなる言葉を贈りたいと考えました。それが、「怒るな働け」です。

「自分の一生を大切だと思うのであれば、いやなことや苦しいことがあったとき、その気持ちを他人にぶついたり、しなければならぬことを投げ出したりしてはいけません。自分の努力で工夫して困難を乗り越えようとする心が大切です。本当の敵は、外ではなく、自分の心の内にあるのです。怒る気持ちをおさえ、朗らかに、努力を生かし、自分の道を切り拓いていきましょう。」



孝子を書いた校訓〔嘉悦学園蔵〕

1919（大正8）年、日本女子商業学校と名前を変え、孝子は、校長となりました。

その後も、孝子は商業教育に力を注ぎ、1949（昭和24）年、83才でなくなりました。

時代を先取りし、日本で初めて女子に商業教育を行った孝子の学校は、今も「嘉悦学園」として、多くの卒業生を世の中に送り出しています。また、孝子の残した「怒るな働け」という精神は、今でも校訓として受けつがれているのです。



現在の嘉悦学園〔嘉悦学園蔵〕

19 ブラジル移民の父と慕われる 上塚 周平



今、ブラジルには、150 万人の日系人（にっけい）がいます。その日系社会で、その多くの人々から尊敬（そんけい）されているのが、「ブラジル移民の父」と呼ばれている上塚周平です。

世紀（時代区分）

100 年を単位として年代を区切る表し方で、19 世紀は、1801～1900 年まで、20 世紀は、1901～2000 年までのそれぞれ 100 年間をいう。

日系人

日本以外の国（いじゆう）に移住（こくせき）し、その国の国籍又は永住権（えいじゆうけん）を取得した日本人及び子孫（しそん）のこと。

19 世紀（せいき）から 20 世紀にかけての日本は、中国とロシアを相手に大きな戦争（にっしんせんそう にちろせんそう）を 2 度（けいざい）したことで、とても経済的に苦しくなっていました。町や村には、仕事を求める人があふれていました。そこで、日本政府は外国に働く人を送り出す事を考えました。この事を移民（いみん）事業（ぎぎょう）といいます。

一方、日本より 23 倍も広い国土を持つブラジルでは、コーヒー豆（まめ）さいばいがさかんで、多くの働き手が必要でした。そこで、日本からブラジルに働きに行けば、1～2 年でお金持ちになって日本に帰って来られるにちがいないと、たくさんの人たちが、希望に胸（むね）をふくらませ、意気（いき）ようようと海（うみ）を渡（わた）って行（い）ったのです。

その移民（いみん）を率（ひき）いる総責任者（そうせきにんしゃ）として選ばれたのが上塚周平（うえづか しゅうへい）でした。上塚周平とはどんな人物（じんぶつ）だったのでしょうか。

◆熊本から東京へ

周平は、熊本市南区城南町の赤見に生まれました。子どものころから活発で、とても頭がいい子でした。隈 庄 高等小学校の同窓会で、

「昼間遊んでばかりで、日が暮れるとすぐにねていたが、いつも成績は、1 番だった。何か工夫していたのだろう。」

と、友人が質問したら、

「授業中に、一生懸命に先生の話の聞き、教室を出ると大いに遊んで体力を養い、夜中に目が覚めると 1 時間くらい勉強しておった。」

と、答えたというエピソードが残っています。

小学校を優秀な成績で卒業した周平は、中学生のころから、海外に出て、活やくする夢を抱き続け、熊本英学校から、済々黌中学に進みます。成績抜群、ユーモアがあり、ひょうきんで、相撲が強い周平は、「モンキー」と呼ばれ、クラスの人気者でした。将来の夢を語り合う弁論大会をしたり、友だちと山歩きや徒歩旅行をしたりしました。そのころから周平は、友情をととても大事にしました。数学や理科の成績がずばぬけていて、先生たちを驚かせたと言われています。

第五高等学校（今の熊本大学）では、夏目漱石から、英語を習いました。そして、東京帝国大学（今の東京大学）へと進みます。周平が、大学に進学した時は、日本には、東京帝国大学のほかに、京都帝国大学（今の京都大学）ができたばかりでした。

周平は、中学の頃から、ずっと海外に進出して活躍する夢を抱き続けていました。東京帝国大学を卒業する時、日本政府のブラ



上塚周平生家
(熊本市南区城南町赤見)



夏目漱石と上塚周平が共に写っている卒業記念写真
前から 2 列目、左から 6 人目が夏目漱石、後ろから 4 列目、右から 2 人目が上塚周平である。



当時の移民募集のポスター

ジル移民事業が始まりました。周平は、大喜びで移民をブラジルに送る移民会社に入りました。

◆大学卒業後、夢の海外へ！

1908（明治 41）年、周平^{しゅうへい}は、移民会社^{そうせきにんしゃ}の総責任者として、第 1 回ブラジル移民 781 人と共に「笠戸丸」^{かさ とまる}に乗り、ブラジルに出発しました。「大金持ちになって日本に帰って来る。」と、たくさんの人々が希望に胸をふくらませて海を渡っていったのです。



周平と笠戸丸



出港前の風景

52 日間かけて 6 月 18 日、やっとブラジルのサントス港に着きました。日本人がブラジルの大地を初めて踏んだこの日が「ブラジル移民の記念日」とされています。

◆^{しゅうへい なや}周平の悩みと決心

移民たちは、コーヒー農園で働き始めました。しかし、この年は、天候が悪く、コーヒー豆は大変な不作でした。朝早くから日が暮れるまで毎日毎日働き続けましたが、^{しゅうにゆう}収入は少なく生活は大変きびしいものでした。そのため、コーヒー農園からにげ出したり、ストライキを起こしたりする人がたくさんいました。移民たちの不満は、責任者である周平たちに向けられました。ある農園では、竹やりや^{くわ}鋤を持ち、大きなさわぎを起こしました。周平は、^{どげざ}土下座し、なみだを流しながら、

「わたしは、命はおしくありません。でも、どうかわたしを生かしておいて、みなさんのために働かせてください。」

と、うったえました。

その後も大きなさわぎはたびたび起きました。周平は、移民からふき出る不満を一身に受け止め、^{はげ}励まし、移民たちの世話に明けくれました。



コーヒー農園で働く移民たち



家族全員での農作業

◆日本への帰国

周平は、ブラジルに渡ってから5年半ぶりに日本に帰国しました。移民事業の^{しょうらい}将来について相談したり援助を求めたりするためでした。

周平の思いや考えは、全く受け入れられませんでした。日本に帰国してからの6年間は、周平の人生の中で最も^{ざせつかん}挫折感に満ちた時期でした。しかし、周平は逃げませんでした。移民たちのために働くという約束を固く守りました。

◆^{かいたく}再びブラジルへ、そして開拓

周平は、再びブラジルへ渡り、ブラジルで日本人が幸せに人間

開拓

広いはんにわたって
山の木を切ったり、野
原の草を刈ったりして
田畑や牧場などにする
こと。

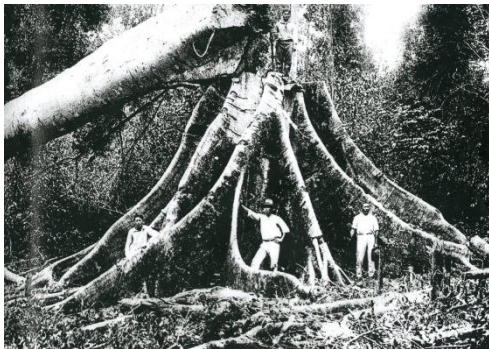
開墾

山の木を切ったり、野原の草をかったりした後、たがやして新しく田や畑をつくること。



開拓の様子

らしく生きていくためにはどうしたらよいかと考え、悩み続けました。そして、豊かにくらすためには、農園で働くだけではなく、自分たちの土地を持つしかないと考えました。できるだけ交通の便がよいこと、農地として適していること、マラリアなどの病気の心配がないことを条件とし、周平は、条件に合う土地を求めて、来る日も来る日も歩き回りました。そうして、ようやく土地を見つけることができたのです。土地が決まると、次は開墾です。巨大な樹木が生い茂る2つのジャングルを、移民たちと力を合わせて切り開きました。その土地の広さは、熊本市の約3分の1の面積になるほどでした。その土地のおかげで、4000人以上もの移民が自分の土地を持ち、安定した生活を送ることができるようになりました。



ジャングルの巨大な樹木

この事業の背景には、周平の友だちの大きな協力もありました。周平は、一生を通して友情を大切にしていました。学生時代も、友だちが病気だと聞けば、飛んで行って看病し、お金に困っている友だちがいれば、自分が持っているお金を全部渡していました。友情を大切にする人だからこそ、逆に困っている周平も多く、多くの友だちに助けられたのです。

◆信念を貫く

周平たちがブラジルに渡って10年。移民たちのくらしも安定してきました。そんな時、移民たちから、

「わたしたちのくらしがよくなったのは、周平さんのおかげだ。

お世話になった周平さんに、新しい家を建ててプレゼントしようじゃないか。」

という声があがりました。すると、その話を聞いた周平はとても

おこりました。

「わたしは、立派^{りっぱ}な家に住むためにブラジルに来たのではないのです。そんなお金があるのなら、子どもたちのための学校がほしい。道路や橋もほしい。」

そう言って、家を建てることをことわりしました。そして、雨もりのする古い家^なに亡くなるまで住み、その一生を移民たちのために尽くしました。

◆ブラジル移民の父・・・上塚^{うえつか} 周平^{しゅうへい}

ブラジルには現在、日本人を祖先^{そ せん}にもつ日系^{にっけい}の人たちが 150 万人いて、世界最大の日系社会を営^{いとな}んでいます。

そして、その日系人は「約束^{やくそく}を守る。まじめにせいじつによく働く。」と、ブラジル社会の中でとても信らいされています。周平が日本人の幸せのためにがんばったからと言っても決して大げさではありません。

周平は、今でも日系社会で「ブラジル移民の父」と呼ばれ尊敬^{そんけい}され、日系人の心の支えとなっています。



ブラジルにある周平の墓



上塚周平橋（ブラジル・サンパウロ市中心部）

出かけよう！調べてみよう！

（資料館、記念館、史跡めぐり）

- 塚原歴史民俗資料館つかはられき し みんぞく し りょうかん
- 植木町田原坂歴史資料館うえ き まち た ばるざかれき し し りょうかん
- 御馬下の角小屋み ま げ かど ご や
- 熊本洋学校 教師ジェーンズ邸（日赤記念館）くまもとようがっこうきょうし てい にっせき き ねんかん
- 後藤是山記念館ごとう ぜ ざんき ねんかん
- 小泉八雲熊本旧居こ いずみ や くもくまもときゅうきよ
- 夏目漱石内坪井 旧 居なつめ そうせきうちつばい きゅうきよ
- 六殿神社楼門ろくでんじんじやろうもん
- 熊本藩川尻米蔵跡・外城 蔵跡・船着場跡くまもとはんかわしりこめぐらあと と じょうぐらあと ふなつき ば あと
- 熊本藩主細川家墓所（泰勝寺跡）くまもとはんしゅほそかわ け ぼ しょ たいしょう じ あと
- 熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）くまもとはんしゅほそかわ け ぼ しょ みょうげ じ あと
- 池辺寺跡ち へん じ あと

魅力満載！熊本市にゆかりの人たちの
ことがよくわかる資料館、記念館、史跡がた
くさんあるよ。一度行ってみないか。

横井小楠記念館、リデル、ライト両女史
記念館、徳富記念園は、人物紹介のページ
に載っているよ。



つかわれき し みんぞく しりょうかん

塚原歴史民俗資料館（塚原古墳公園内：塚原古墳群）

（国指定史跡）

住所：熊本市南区城南町塚原 1924

電話：(0964) 28-5962

いにしへの浪漫を求めて！



資料館玄関前の石像



塚原歴史民俗資料館

塚原古墳公園の中に資料館があります。館内には考古・歴史・民俗の3つの展示室があり、豊富な収蔵品を備えています。塚原古墳群の出土品をはじめ各所からの縄文・弥生時代の出土品や民俗資料など約400点を展示しています。

ここでは、
まがたま
勾玉作りなどの体験も
できるよ。



時を超えて静かに息づく！

熊本市南区城南町の遺跡からの出土品を中心に展示する考古展示室には、甕棺やいろんな土器、石剣など、資料約300点を展示しています。

展示品の中には、国指定の文化財をはじめ、塚原古墳群の発掘品などが多数展示されていて、古き時代の息吹きを感じさせてくれます。



資料館内考古展示室



塚原古墳群

城南町は古墳の宝庫！

塚原古墳群

資料館南の台地一帯には、琵琶塚、
はなみづか いしのむろこふん ほうけいしゅう
花見塚、石之室古墳を中心に、方形周
こうぼ えんぷん ぜんぼうこうえんふん
溝墓、円墳、前方後円墳など約500基
が存在したと推定されています。左の
写真は、公園内にある国指定の古墳群
です。

たばるざかれきししりょうかん たばるざかこうえんない
田原坂歴史資料館（田原坂公園内）

住所：熊本市北区植木町豊岡 858-1
 電話：(096) 272-4982

（平成27年に「熊本市田原坂西南戦争資料館」として移設しリニューアルオープンしました。）

明治の激動、戦いの激しさが伝わる展示品



田原坂歴史資料館



政府軍の軍服

1877（明治10）年の西南戦争最大の激戦地「田原坂」。^{げきせんち}“越すに越されぬ田原坂”の民謡^{みんよう}でも知られ、17日間にわたる戦闘が繰り広げられました。1日で使用された弾丸^{だんがん}32万発。弾^{たま}と弾が空中でぶつかり合ったと伝わるほど激しい戦いであったと言われています。資料館には当時の貴重な政府軍・士族からなる西郷軍の武器・弾薬^{だんやく}・備品^{いひん}などの遺品や戦争資料等約600点が展示してあります。

園内に残る、激戦の跡！



田原坂公園内の慰霊塔



鉄砲の弾のあとが残る土蔵（復元）

園内には、激戦の跡が生々しい鉄砲の弾のあとが残る家（復元）や慰霊塔が建ち、当時の戦いの激しさがうかがえます。



資料がたくさんあるので、西南戦争について詳しく調べてみたいな。

み ま げ か ど ご や し して い ぶ ん か ざ い
御馬下の角小屋 (市指定文化財)

住所：熊本市北区四方寄町1274

電話：(096) 245-2963

右の建物は、江戸時代に庄屋を務めるか
たわら質屋・酒屋を営んだ堀内家の住宅で
す。参勤交代の折には、豊前街道を往来す
る島津、細川などの大名がお茶屋(休憩所)
として使用しました。

薩摩藩主島津斉彬のお供をして、西郷
隆盛も立ち寄ったと言われています。

この建物は、1809(文化6)年に整備さ
れました。自宅を兼ねた店として使って
いた部分と藩主の休憩所に使われた座敷部



御馬下の角小屋

分があります。自宅を兼ねた部分は、江
戸末期の町屋を表しています。



すごいね。
西郷隆盛が立ち
寄ったかもしれ
ないんだって。

く ま も と よ う が つ こ う き ょ う し て い
熊本洋学校 教師ジェーンズ邸
(県指定重要文化財「洋学校教師館」)

住所：熊本市中央区水前寺公園12-10

電話：(096) 382-6076

1871(明治4)年に古城に建てられた熊本
で最も古い西洋建築物で、熊本洋学校に教師
として招かれたジェーンズが住んだ邸宅で
す。

ジェーンズは、ここで生徒たちに英語だけ
で勉強を教えました。徹底した自主学習を基
本として指導し、優れた人材を輩出しまし
た。

洋学校は、1876(明治9)年に閉校となり
ます。1877(明治10)年、熊本を舞台に始
まった西南戦争では、戦火を免れました。
この戦争の時、敵味方の区別なく負傷者を



ジェーンズ邸(洋学校教師館)

助けたいという考えから博愛社ができ、
後に名称を日本赤十字社と変えました。
ジェーンズ邸の2階で博愛社設立の許可
がおりたことから、「日赤記念館」とも
呼ばれています。

ジェーンズ邸は昭和45年に現在地に
移りました。

西洋の香りがするととても素
敵な建物だよ。この学校から日
本の文化をリードする人たちが
たくさん出たんだ。



「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」は平成28年熊本地震で倒壊し、場所を変えて令和5年(2023年)に再開館しました。

ごとう ぜざん きねんかん
後藤是山記念館

住所：熊本市水前寺 2 丁目 6-10
電話：(096) 382-4061

後藤是山は
1886 (明治 19)
年、大分県久
住 町に生まれ
ました。



記念館玄関

1909 (明治
42) 年、熊本市の九州日日新聞社 (熊本日日
新聞社の前身) に入社しましたが、理想の新
聞社とは大きく違っただため、社長の勧めで東
京の国民新聞社に 留学しました。そこで徳
富蘇峰の指導を受けたり、蘆花や当時の有名
な文化人たちの影響を受けたりしました。

熊本に帰り、文芸欄の拡 充 に努力し有名



きねんかんたんせいきよ ぜざんきゆうきよ
記念館淡成居 (是山旧 居)

はいじん か
な俳人，歌
じん が か
人，画家た
ちを紙面に
登場させ、
熊本の文芸
の発展に大
きく貢献し

ました。

みづか しょうがい
自 ら歌人でもありましたが、生涯一

記者としての生活を 貰 きました。

上の家は、是山さんが暮ら
した家だよ。ここには、歌
人の与謝野晶子さんと一緒
に写っている写真も展示し
てあるよ。



こ いずみ や くもくまもときゆうきよ

小 泉 八雲熊本旧 居 (市指定文化財)

住所：熊本市中央区安政町 2-6
電話：(096) 354 - 7842

「耳なし芳一」「むじな」などの作者と
して知られる小泉八雲，もとの名前をラフ
カディオ・ハーンといいます。

小泉八雲はイギリス人で、幼い時大叔母
のもとで育てられますが、16 才のころ、事
故で左目を失明してしまいます。やがてア
メリカに渡りジャーナリストとして有名
になりました。取材で訪れた日本が大好き
になった八雲は、1890 (明治 23) 年島根県
松江中学の英語の先生となります。翌年小
泉セツと結婚し、第五高等学校 (現在の

熊本大学) の英
語教師として熊
本に赴任しまし
た。この住居は、
1891 (明治 24)



小泉八雲旧居

年 11 月から 1 年を過ごした住居です。日
本文化が大好きだった八雲は、たたみのあ
る武家屋敷様式のこの家に住み、神棚を作
って毎朝お参りをして、学校に人力車で通
っていました。そして、日本人の文化や精
神、ものの考え方などを紹介する本を書
いて、外国に伝えました。1995 (平成 7)
年に復元された住居内には、八雲の足跡を
紹介したパネルや作品のほか、八雲がお参
りしたという神棚も置かれています。

なつめ そうせきうちつ ぼい きゅうきよ

夏目漱石内坪井旧居（市指定史跡）

住所：熊本市中央区内坪井町4-22

電話：(096) 325-9127

夏目漱石は、1896（明治29）年、第五高等学校（現在の熊本大学）の教師として熊本に来ました。

熊本滞在期間中に6回も転居した中で、最も長い1年8ヶ月を暮らしたのがこの家です。庭内には、漱石の句碑や長女筆子が生まれた時に産湯を使った井戸、教え子で後に物理学者で優れた随筆家となった寺田寅彦が泊まった馬丁小屋などが現在も残っています。また、展示室には、直筆原稿や



夏目漱石内坪井旧居

第五高等学校の教師だった頃の写真、草枕絵巻等を多数展示しています。

この旧居は、5番目の家で、1978(昭和53)年熊本市指定史跡となっています。

夏目漱石がここに住んでいたんだね。



ろくでんじんじゃろうもん

六殿神社楼門（国指定重要文化財）

住所：熊本市南区富合町木原 2378

電話：(096) 357 - 4127



六殿神社楼門全景

六殿神社は、1178（治承2）年に、平重盛が建立し、また、この地域一帯を治めた木原氏の氏神だと伝えられています。毎年10月9日の大祭には、古式豊かな神楽や

やぶさめ ほうのう

流鏝馬が奉納されています。

朱塗りで美しい楼門は、1549（天文18）

年に、宇土城主名和氏が建てたものです。屋根は入母屋造りのかやぶきで、巧みな手法と複雑な装飾は、室町時代の典型的な建築様式を示しています。1907（明治40）年、県下では最も早く国指定重要文化財に指定されました。

造りだね。 って！見事な ってないんだ 釘が一本も使



六殿神社楼門の屋根

くまもとはんかわしりこめぐらあと とじょうぐらあと
熊本藩川尻米蔵跡・外城蔵跡・

ふなつき ばあと
船着場跡 (国指定史跡)

住所：熊本市南区川尻3丁目3

川尻は、加藤清正時代から海外貿易港として栄えたところです。また、緑川上流の年貢米の集積地でもありました。細川藩になって、さらに活気に満ちていました。

川尻の外城には、加勢川沿いにある船着場の跡が今も残っています。江戸時代、船荷の積み下ろしのために設けられました。潮の干満に影響されない13段の石段が150mにわたり造られています。船着場前には、各地から集められた年貢米を保管す

る「御蔵」が3ヶ所9棟ありました。ここから、大坂（大阪）へ年貢米や農産物が船で送られました。大坂からは日用雑貨などが荷あげされていました。また、天草方面からの日常物資を積んだ船の出入りも多く、これは昭和30年ごろまで続きました。

向こうには九州新幹線の高架も見えるね。



川尻船着場跡



川尻米蔵跡・外城蔵跡

くまもとはんしゅほそかわ け ぼ しょ たいしょう じ あと
熊本藩主細川家墓所（泰勝寺跡）

(国指定史跡)

住所：熊本市中央区黒髪4丁目610

電話：(096) 344 - 6753

たつ た やまさん
 立田山山ろくの立田自然公園には、熊本藩主細川家の菩提寺である泰勝寺跡があります。



四つ御廟

ここには、細川家初代藤孝夫妻と二代目忠興とガラシャ夫人の四人の墓のある「四つ御廟」や、武士でありながら茶道にかけては国内随一と言われた細川忠興の原図に基づいて復元された茶室「仰松軒」などがあ

ります。「仰松軒」にある手水鉢は、京都で忠興が愛用したもので、豊臣秀吉や千利休も使用したと伝えられています。

藩主は、この手水鉢を参勤交代の道中にも持参したと言われます。ここでは、今も四季折々に茶会が行われています。



仰松軒

杉木立がうっそうと茂り、緑に囲まれた泰勝寺は1955（昭和30）年に細川家から熊本市に貸与され、以後立田自然公園として一般に公開され、市民の憩いの場として親しまれています。

くまもとはんしゅほそかわけぼしよ みょうげ じあと
熊本藩主細川家墓所(妙解寺跡)

(国指定史跡)

住所：熊本市中央区横手 2-5-1

電話：(096)356-6753

妙解寺は、肥後藩第2代藩主である細川光尚(光利)(細川家第4代)が、父・初代藩主忠利の冥福を祈って建てた寺です。昭和に入り、熊本市が細川家より譲り受け、花岡山の麓に北岡自然公園



石燈籠が並ぶ参道

として整備し、一般に公開されています。現在、妙解

寺橋・山門・裏門・枯山水の庭園・参道の石燈籠など多くの遺



忠利夫妻・光尚の3人の霊廟

跡が300年の歴史を物語ってくれます。

忠利のあとを追って亡くなった藩士の墓だけでなく、「忠利ゆかりの鶴の碑」もあります。また、森鷗外の小説「阿部一族」のモデルとなった阿部弥一右衛門の供養塔もあります。

九州新幹線の全線開業により、熊本駅周辺の散策ルートの一つとして注目されているよ。「泰勝寺」と一緒に巡ってみよう！



ちへんじあと
池辺寺跡(国指定史跡)

住所：熊本市西区池上町



上空からの池辺寺跡の全景

池辺寺跡は、熊本市西区池上町の標高128～141mの百塚地区にあった平安時代初め(今から約1200年前)の寺の跡です。



「池辺寺跡」から、眼下にひろがる景色をながめながら、古代から今につながる歴史を感じてみよう！

池辺寺は、奈良時代に味生池(今の池上小学校の東側にあった溜池)の龍を鎮めるために建てられたと伝えられ、明治時代まで続いていました。調査によって、6つの建物跡や100基の石塔跡、多量の土器などが見つかっています。他にも伝説や宝物がたくさん残る、魅力いっぱいのお寺の跡です。



池辺寺跡の発掘調査のようす

「池辺寺跡」は平成28年に整備工事が完了し、一般公開が始まりました。

◆郷土読本 夢の実現を ふるさと くまもとの人々 歴史年表 1

時代	西暦	日本のおもなできごと・ふるさとくまもとのできごと	活躍した主な人物	ふるさとの人々
1 万年前ごろ		狩りや漁のくらしが行われる		
縄文		縄文土器や石器がつくられる		
弥生		弥生土器がつくられる		
	239	邪馬台国の卑弥呼が中国（魏）に使いを送る	卑弥呼(2 世紀末～ 3 世紀前期)	
	593	聖徳太子が摂政となる	聖徳太子(574～622)	
古墳	607	法隆寺が建てられる	小野妹子(6 世紀末～ 7 世紀前期)	
	645	大化の改新	中臣鎌足(614～669)	
	710	奈良（平城京）に都が移る	中大兄皇子(626～671)	
奈良		このころ池辺寺が つくられる	行基(668～749)	
	794	京都（平安京）に都が移る	鑑真(688～763)	
			聖武天皇(701～756)	
平安	1016	藤原道長が摂政になる	清少納言(10 世紀後期～ 11 世紀前期)	
	1167	平清盛が太政大臣になる	紫式部(10 世紀後期～ 11 世紀前期)	
	1192	源頼朝が征夷大將軍になる	藤原道長(966～1027)	
	1274	元が攻めてくる	平清盛(1118～1181)	
鎌倉	1278	寒 ^{かん} 巖 ^{がん} 義 ^ぎ 尹 ^{いん} が大慈寺を建てる	源頼朝(1147～1199)	寒 ^{かん} 巖 ^{がん} 義 ^ぎ 尹 ^{いん} (1217～1300)
	1281	再び元が攻めてくる	源義経(1159～1189)	
	1333	鎌倉幕府がほろびる	北条時宗(1251～1284)	
	1397	足利義満が金閣を建てる	足利義満(1358～1408)	
室町	1467	応仁の乱が起こる	雪舟(1420～1506)	
	1492～1501	鹿子木寂心 ^{（親員）} 、このころ「限本城」 ^{（古城）} に居城を移す	足利義政(1436～1490)	鹿子木寂心 ^{（?）} ～1549)
	1543	鉄砲が伝わる	ザビエル(1506～1552)	
	1549	キリスト教が伝わる	織田信長(1534～1582)	
	1573	六 ^{ろく} 殿 ^{でん} 神社 ^{じんじや} 楼 ^{ろう} 門 ^{もん} が建てられる	豊臣秀吉(1537～1598)	
安土	1573	織田信長が室町幕府をほろぼす	徳川家康(1542～1616)	加藤清正(1562～1611)
桃山	1590	豊臣秀吉が全国を統一する		宮本武蔵(1584～1645)
	1600	関ヶ原の戦いが起こる		細川忠利(1586～1641)
	1603	徳川家康が江戸に幕府を開く	徳川家光(1604～1651)	
	1607	熊本城が完成する		
	1615	武家諸法度が定められる		
江戸	1632	細川忠利、初代肥後藩主となる		
	1635	参勤交代の制度が確立される		
	1637	島原・大草一揆が起こる		
	1640	宮本武蔵が、細川忠利にまねかれ、細川家につかえる		
	1641	鎖国が完成する		

◆郷土読本 夢の実現を ふるさと くまもとの人々 歴史年表 2

時代	西暦	日本のおもなできごと・ふるさとくまもとのできごと	活躍した主な人物	ふるさとの人々
えど 江戸		大阪を中心に町人の文化が栄える	ちかまつもん ざ ぎもん 近松門左衛門 (1653～1724)	ほそかわしげかた 細川重賢(1720～1785)
	1747	ほそかわしげかた ひ ぎ はんしゅ 細川重賢、第 6 代肥後藩主となる	もとおりのりなが 本居宣長(1730～1801)	
	1755	はんこう じしゅうかん 熊本城二の丸に藩校「時習館」が開講する	すぎた げん ばく 杉田 玄 白 (1733 ～ 1817)	
	1757	さいしゅんかん 「再春館」が開講する	いの うただたか 伊能忠敬(1745～1818)	
	1774	すぎ たげんばく かいたいしんしょ 杉田玄白らが「解体新書」を出版する	ペリー (1794～1858) うたがわひろしげ 歌川広重(1797～1858)	
		江戸を中心に町人の文化が栄える		よこ い しょうなん 横井小楠(1809～1869)
	1798	もとおりのりなが こ じ き でん 本居宣長が「古事記伝」をあらわす	かつかいしゅう 勝海舟(1823～1899)	まつもと き さぶろう 松本喜三郎(1825～1891)
	1853	うら が ペリーが浦賀に来る	さいごうたかもり 西郷隆盛(1827～1877)	たけざきじゅん こ 竹崎 順子(1825～1905)
	1854	にちべいわ しんじょうやく 日米和親条約を結ぶ	おおく ぼとしみち 大久保利通(1830～1878)	とみしげ り へい 富重利平(1837～1922)
	1858	にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく 日米修好通商条約を結ぶ	き ど たかよし 木戸孝允(1833～1877)	ひろ たひさし 広田 尚 (1842～1895)
めいじ 明治	1864	さかもとりよう ま し じ げん おとず 坂本龍馬が初めて「四時軒」を訪れる	ふくざわ ゆ きち 福沢諭吉(1834～1901)	いのうえこわし 井上 毅 (1843～1895)
	1867	とくがわしのが たいせいほうかん 徳川慶喜が政権を朝廷に返す (大政奉還)	さかもとりゆうま 坂本竜馬(1835～1867)	は と の そ う は 鳩野宗巴(1844～1917)
	1868	めい じ い し ん 明治維新 江戸を東京とする	いたがきたいすけ 板垣退助(1837～1919)	ハンナ・リデル (1855～1932)
		よこ い しょうなん きんよ 横井小楠、明治政府の参与となる	おおくま しげのぶ 大隈 重信 (1838 ～ 1922)	とくとみ そ ほう い いちろう 徳富蘇峰 (猪一郎)
	1871	はいはんち けん 藩が廃止され県が置かれる (廃藩置県)	いとうひろぶみ 伊藤博文(1841～1909)	(1863～1957)
		くまもとけん 熊本県が設置される	む つ むねみつ 陸奥宗光(1844～1897)	エダ・ハンナ・ライト (1870～1950)
	1872	学制が公布される	とうごうへいはちろう 東郷平八郎(1847～1934)	
	1875	植木学校が開校する	めい じ てんのう 明治天皇(1852～1912)	か えつたか こ 嘉悦孝子(1867～1949)
	1877	せいなんせんそう 西南戦争が起こる	こむらじゅたろう 小村寿太郎(1855～1911)	はやしいちぞう 林市蔵(1867～1952)
		西南戦争で市街地の大半が焼失する	なつ め そうせき 夏目漱石(1867～1916)	う の てつ と 宇野哲人(1875～1974)
		自由民権運動がさかんになる	のぐちひでよ 野口英世(1876～1928)	うえつかしゅうへい 上塚周平(1876～1935)
	1882	まつもと き さぶろう 松本喜三郎の人形展示会が熊本で開かれる。		たかはしもり お 高橋守雄(1883～1957)
		とくとみ いちろう そ ほう おお え ぎ じゅく 徳富猪一郎 (蘇峰)，大江義塾をつくる		かたやまなんぷう 堅山南風(1887～1980)
	1887	だいごこうとう せうりつ 第五高等中学校 (現五高記念館) が創立する		
	1889	だいにほんていこくけんぽう 大日本帝国憲法が発布される		
	1890	きょういくちよくご いのうえこわし もと だ ながざね りつあん 教育勅語を井上毅と元田永平が立案する		
	1891	こいずみや くも ラフガディオハーン (小泉八雲)，五高に着任する		
		とみしげ り へい 富重利平，日本で初めての写真師同盟をつくる		
	1894	にっしんせんそう 日清戦争 (～95)		
	1895	ハンナ・リデルが回春病院を設立する		
	1896	なつめそうせき しょうさん 夏目漱石，五高に着任 (熊本を「森の都」と称賛) する		
	1897	たけざきじゅんこ 竹崎順子，熊本女学校の校長となる		
たいしょう 大正	1904	に ち ろ せんそう 日露戦争 (～05)		
	1906	う の てつ と しん りゅうがく 宇野哲人，中国 (清) に留学する		
	1908	うえつかしゅうへい かさと まる 上塚周平，第 1 回ブラジル移民と共に「笠戸丸」でブラジルへ出発する		
	1910	かんこくへいごう 韓国併合が行われる		
	1911	かんぽうじしゅけん 条約改正が達成される (関税自主権の回復)		
	1919	かえつたか こ 嘉悦孝子，日本女子商業学校の校長となる		

◆郷土読本 夢の実現を ふるさと くまもとの人々 歴史年表 3

時代	西暦	日本のおもなできごと・ふるさとくまもとのできごと	活躍した主な人物	ふるさとの人々
たいしょう 大正	1922	高橋守雄, 熊本市長となる		
	1923	関東大震災が起こる		
	1924	熊本市営電車が開通する		
しょうわ 昭和	1925	普通選挙制度が定められる		
	1927	熊本市で方面委員制度がつくられる		
	1929	水前寺動物園が開園する		
	1930	熊本市歌が制定される		
	1931	満州事変が起こる		
	1933	日本が国際連盟を脱退する		
	1937	日中戦争（～45）		
	1941	太平洋戦争（～45）		
	1945	広島・長崎に原子爆弾が落とされる		
	1946	日本国憲法が公布される		
	1949	「火の国まつり」が開始される		
	1951	日米安全保障条約が結ばれる		
	1953	集中豪雨により大水害が起こる（「6.26 水害」）		
	1956	国際連合に加盟する		
	1960	熊本空港（健軍）が開設される 熊本城天守閣の再建が完成する		
	1964	オリンピック東京大会が開かれる		
	1968	堅山南風, 母校（壺川小学校）を66年ぶり訪問する 宇野哲人, 母校（向山小学校）に「自彊不息」の書を贈る		
	1972	沖縄が日本に復帰する		
	1977	熊本市の人口が、50万人を突破する		
	1980	中村汀女, 国の文化功労者となる		
へいせい 平成	1994	日本が子どもの権利条約を承認する		
	1995	阪神・淡路大震災が起こる		
	2000	九州・沖縄サミットが開かれる		
	2002	日本と韓国でサッカーワールドカップ大会を共催		
	2004	イラクの復興支援に自衛隊が派遣される		
	2008	熊本城本丸御殿が復元される		
		熊本市と富合町が合併する		
	2010	熊本市と城南町、植木町が合併する		
	2011	桜の馬場城彩苑が開園する		
		東日本大震災が起こる		
		九州新幹線が全線開業する		
	2012	第1回熊本城マラソンが開催される		
		熊本市が全国で20番目の政令指定都市となる		
				
				第1回熊本城マラソンの様子

ふるさと くまもとの人々 改訂版 企画・編集委員

企画委員

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター特任教授	川口 恭子
熊本県文化財保護指導委員（元横井小楠記念館館長）	菅 秀隆
熊本市文化財保護委員（元必由館高等学校長）	村上 豊喜
熊本市南区城南町郷土史家	米原 尋子
熊本市北区植木町郷土史家	勇 知之
熊本市教育委員会指導課長	濱平 清志

編集委員会

（監修）

委員長	託麻南小学校	校長	中村 和徳
副委員長	田 迎小学校	校長	秋丸 稔
	画 図小学校	校長	古閑 憲一
	尾ノ上小学校	校長	北 誠一郎

（編集）

慶 徳小学校	教諭	吉住 秀文
向 山小学校	教諭	源 洋子
出 水小学校	教諭	原田 淳子
砂 取小学校	教諭	原口 琢哉
日 吉小学校	教諭	右ノ子 隆博
力 合小学校	教諭	小田 光幸
託麻東小学校	教諭	西橋 美穂
託麻北小学校	教諭	中野 二則
東 町小学校	教諭	荒牧 善昭
東 町小学校	教諭	杉本 佳秋
帯山西小学校	教諭	倉岡 恵
出水南小学校	教諭	高崎 涼子
出水南小学校	教諭	森山 政司
城 南小学校	教諭	高木 謙一
川 上小学校	教諭	前田 淳子
北部東小学校	教諭	平川 純哉
芳 野小学校	教諭	松川 裕一
桜木東小学校	教諭	森田 欽也
富 合小学校	教諭	藤本 敏広
杉 上小学校	教諭	坂本 芽
隈 庄小学校	教諭	浦上 眞代
山 東小学校	教諭	安井 琴美

郷土読本 夢の実現を ふるさと くまもとの人々

初 版 平成 12 年 3 月 20 日 印 刷
平成 12 年 4 月 1 日 発 行
改訂版 平成 24 年 6 月 22 日 印 刷
平成 24 年 7 月 2 日 発 行

企画 ふるさとくまもとの人々改訂版企画委員会
編集 ふるさとくまもとの人々改訂版編集委員会
発行 熊 本 市 教 育 委 員 会
印刷 あ す な ろ 印 刷

